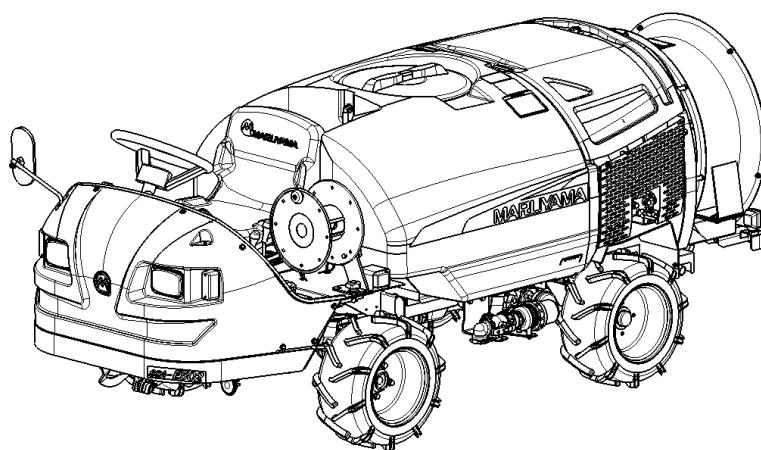


取扱説明書

ステレオスプレーヤ

SSA-E502DX



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に、本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要な時にすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。
- 製品出荷時は、燃料を少量しか入れておりません。給油してからご使用ください。



株式会社丸山製作所

はじめに

- 本製品は果樹園における防除作業を目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。上記に示した以外での作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（道路運送車両法、道路交通法、農薬取締法、消防法、廃棄物処理法）を遵守してください。
- 万一に備え、労災保険に加入しましょう。
特定農作業従事者、指定農業機械作業従事者は加入できます。詳しくは農協（JA）または都道府県労働局にお尋ねください。

安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 18 歳以上の方が、果樹園における防除作業を目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

 **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

 **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



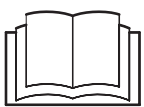
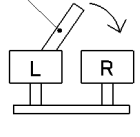
製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。		軽油は引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。
	排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。		バッテリーが破裂（爆発）するおそれがあること。
	指または手を切傷するのでファンに触れないこと。		指または手を切傷するのでベルトに触れないこと。
	火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラーなどの高温部に触らないこと。		ほ場以外の運転時は、必ず左右ブレーキをブレーキコネクタで連結すること。

本製品は農薬を散布する機械です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

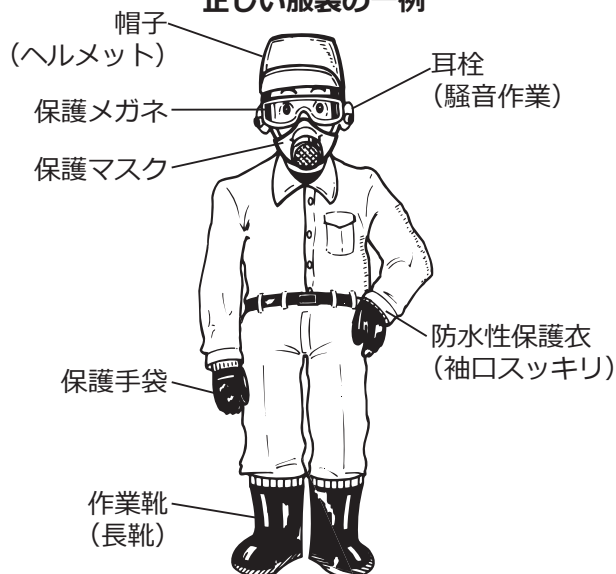
⚠ 危 険	
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 強酸性の薬品、強アルカリ性の薬品、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどを噴霧しないでください。 ■ 引火性の高い薬剤は使用しないでください。
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。 ■ エンジンは停止直後も高温ですので、可燃物を近付けないでください。 ■ 排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。

⚠ 警 告	
	使用目的以外の使用禁止 ■ 本製品は農薬の散布を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。 目的以外に使用すると、安全性を損なうおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。
	改造禁止 ■ 本製品の改造は行わないでください。 安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。
	部品取り禁止 ■ 本製品から組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。 他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。
	使用者に関する注意事項 ■ 体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 18歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 生理中や産後1年を経過していない女性、負傷中などの人は作業しないでください。 薬剤による影響を受け、薬害に至るおそれがあります。
	使用環境に関する注意事項 ■ 降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。 感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。 転倒してけがに至るおそれがあります。 ■ 本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。 一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

警告

作業着、保護具について

正しい服装の一例



- 身体を露出しないように、防水性保護衣、帽子（走行時はヘルメットも着用）、耳栓、保護メガネ、保護マスク、保護手袋、作業靴（長靴）などの保護具を必ず装着してください。

保護具が不適切な場合、薬剤が身体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

- 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。

注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。

作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は28ページの「5. 始業点検（作業前点検）」を参照してください。

下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至るおそれがあります。

- 燃料の給油時や本製品を点検、整備するときは、本製品の近くで喫煙など火を使わないでください。
- 燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 作業中に燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。
- 静電気による発火のおそれがあるため、燃料の保管・運搬には樹脂製の容器を使用しないでください。
- 燃料の運搬には金属製燃料缶を使用してください。

警告ラベルの取り扱い

⚠ 注 意

下記の項目を守ってください。

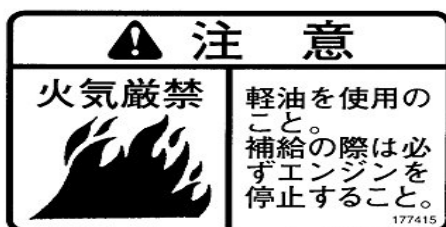
本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※ 新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

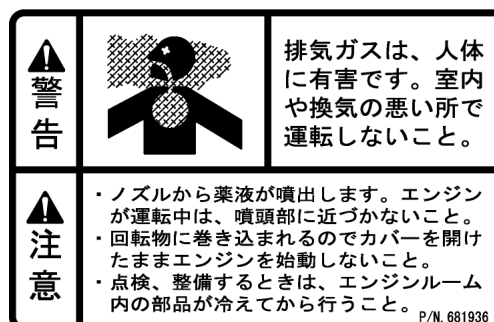
※ 本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

本製品のご使用前に 1 ページの「■ シンボルマークについて」を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

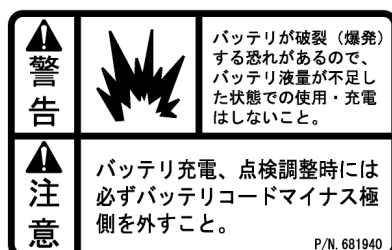
① 注意ラベル (部品番号 :177415)



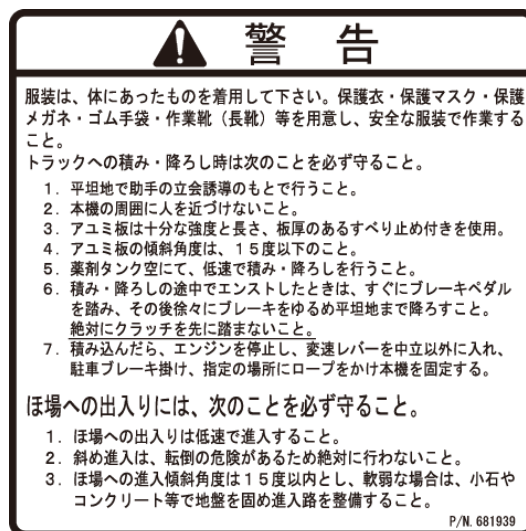
② 警告・注意ラベル (部品番号 :681936)



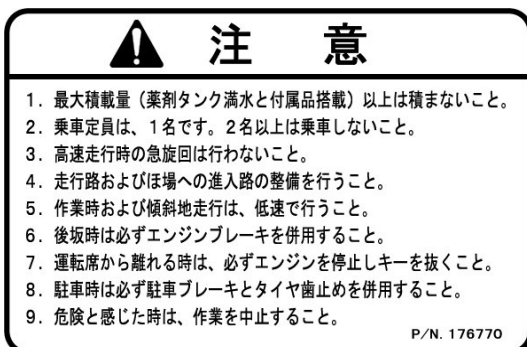
③ 警告・注意ラベル (部品番号 :681940)



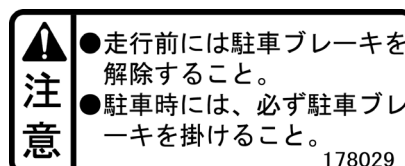
④ 警告ラベル (部品番号 :681939)



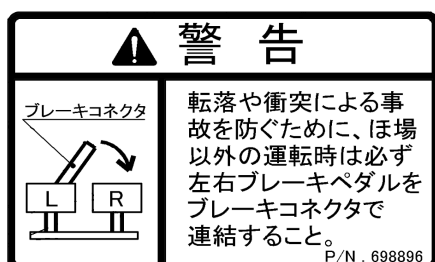
⑤ 注意ラベル (部品番号 :176770)



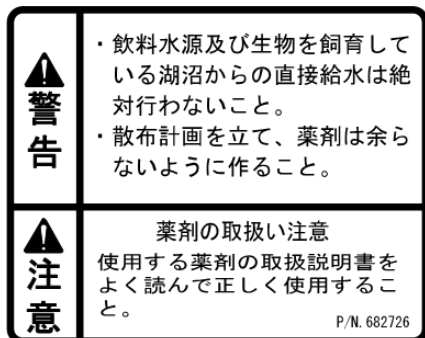
⑥ 注意ラベル (部品番号 :178029)



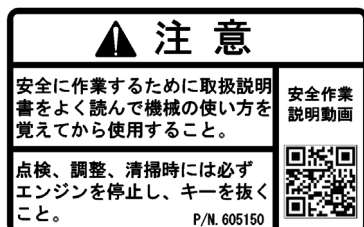
⑦ 警告ラベル (部品番号 :698896)



⑧ 警告・注意ラベル (部品番号 :682726)



⑩ 注意ラベル (部品番号 :605150)



⑫ 注意ラベル (部品番号 :296260)



⑨ 注意ラベル (部品番号 :178055)

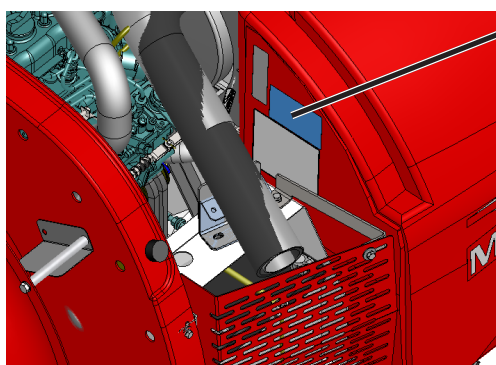


⑪ 注意ラベル (部品番号 :178056)

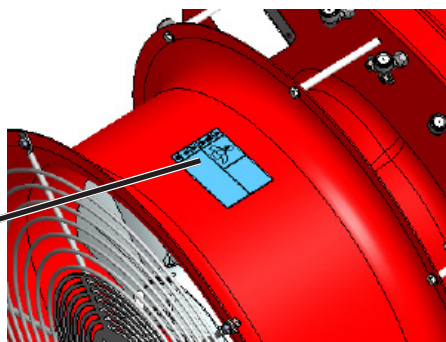


⑬ 製造プレート (部品番号 :600736)

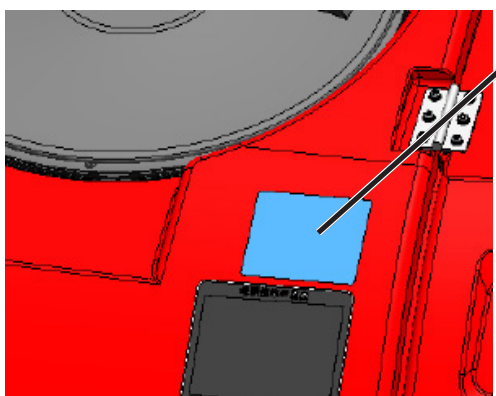
農業機械の種類	スピードスプレー
製品コード	315406
型式名	SSA-E502
区分	DX-1
製造番号	*****
製造会社	警視庁 警務部 警視庁 警務部 警視庁 警務部 東京都千代田区内神田3-4-15



③ 警告・注意ラベル



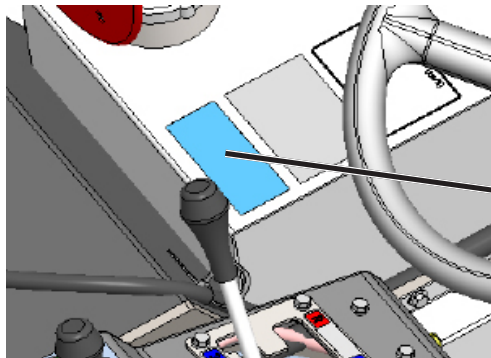
② 警告・注意ラベル



⑧ 警告・注意ラベル



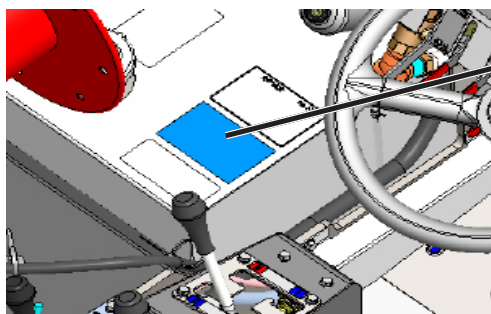
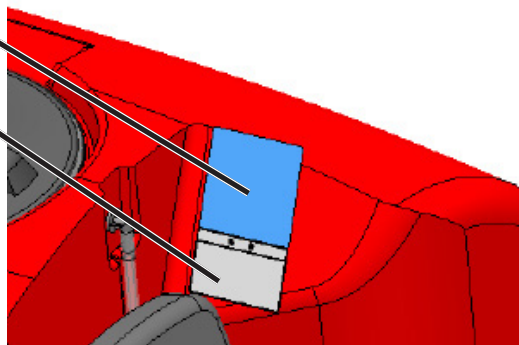
⑦ 警告ラベル



④ 警告ラベル

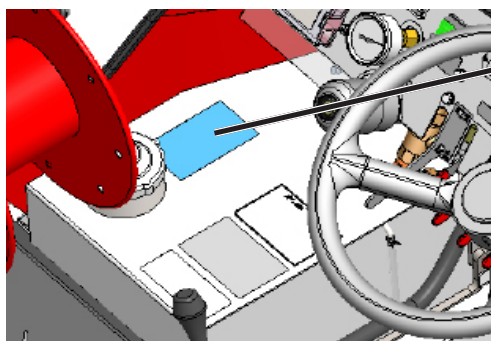
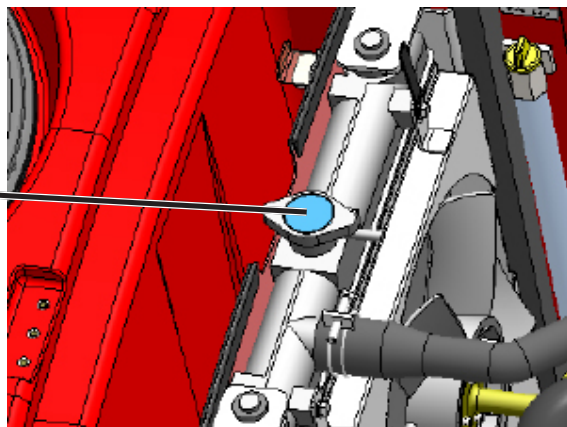
⑤ 注意ラベル

⑥ 注意ラベル



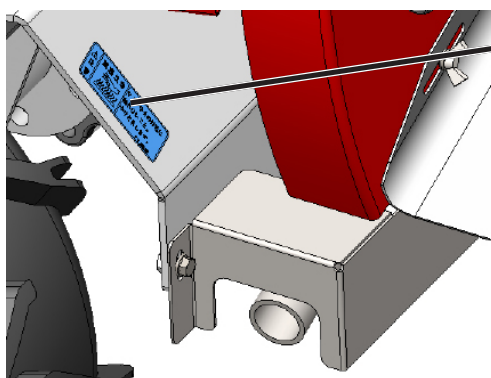
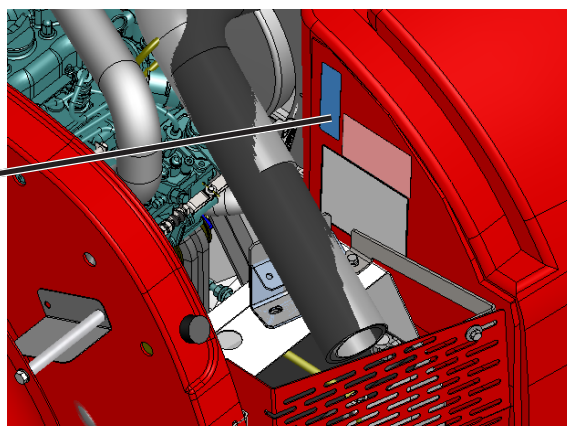
⑩ 注意ラベル

⑨ 注意ラベル



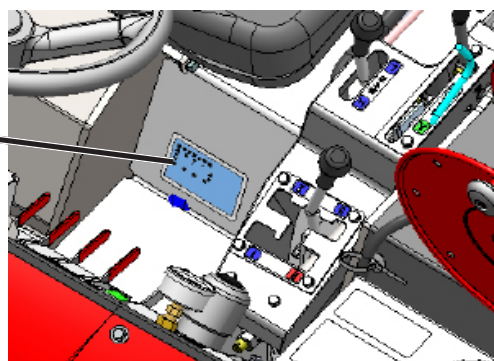
① 注意ラベル

⑪ 注意ラベル



⑫ 注意ラベル

⑬ 製造プレート



目次

▲安全に作業するために	1
警告ラベルの取り扱い	4
1. 梱包品と各部のなまえ	8
(1) 梱包品の確認	8
(2) 各部のなまえ	8
(3) 各部の働き	10
2. 運転前の準備	19
(1) 初めてお使いになる場合	19
(2) 給油	19
3. エンジンの始動と停止	21
(1) エンジンの始動	21
(2) エンジンの停止	22
(3) 慣らし運転	22
4. 運搬の仕方	23
(1) 走行運転の仕方	23
(2) トラックへの積み込み方	25
(3) トラックからの降ろし方	27
5. 始業点検(作業前点検)	28
6. 作業の準備	30
(1) 作業者の服装と保護具の装着	30
(2) 給水	30
(3) ノズルの選定	32
(4) 噴霧確認	37
(5) 作業現場の整備	38
(6) 作業計画	38
(7) 薬剤の準備	39
7. 散布作業	41
(1) 散布作業	41
(2) 散布作業後	43
8. 保守点検(点検整備方式)	46
9. 点検・整備	52
(1) 冷却系統の点検	54
(2) エアクリーナエレメントの点検	54
(3) エンジンオイルの点検	55
(4) オイルフィルタカートリッジの交換	55
(5) ファンベルトの点検	56
(6) スクリーンの清掃	56
(7) 燃料系統の点検	56
(8) デフオイルの交換	58
(9) ミッションオイルの交換	58
(10) Vベルトの点検	59
(11) グリスアップ	60
(12) 噴霧用ポンプの点検	61
(13) バッテリーの点検	61
(14) タイヤの点検	62
(15) ブレーキ・クラッチペダルの点検	63
(16) ハンドルの点検	64
(17) 駐車ブレーキの点検	64
10. 長期保管	65
11. 故障と対策	67
12. 転売・譲渡・廃棄	69
13. 主要諸元	70
14. オプション(純正品一覧)	71
15. 配管系統図	72
16. 配線図	73

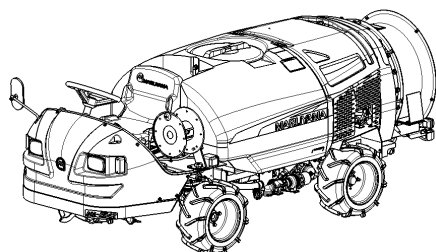
1. 梱包品と各部のなまえ

(1) 梱包品の確認

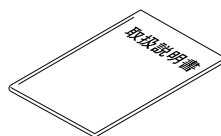
開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。

【SSA-E502DX-1】

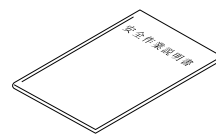
()内は部品番号です。



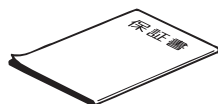
本体



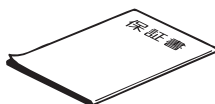
取扱説明書 /1 冊
(600737)



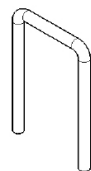
安全作業説明書 /1 冊
(177230)



保証書 /1 冊



特別保証書 /1 冊
※ 動力噴霧機 2 年

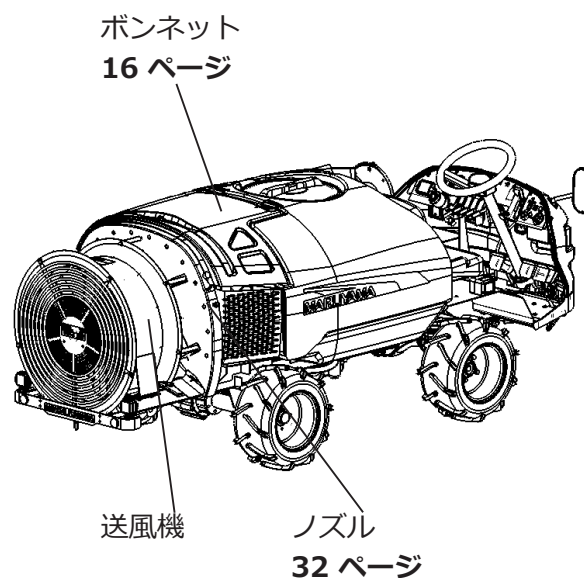
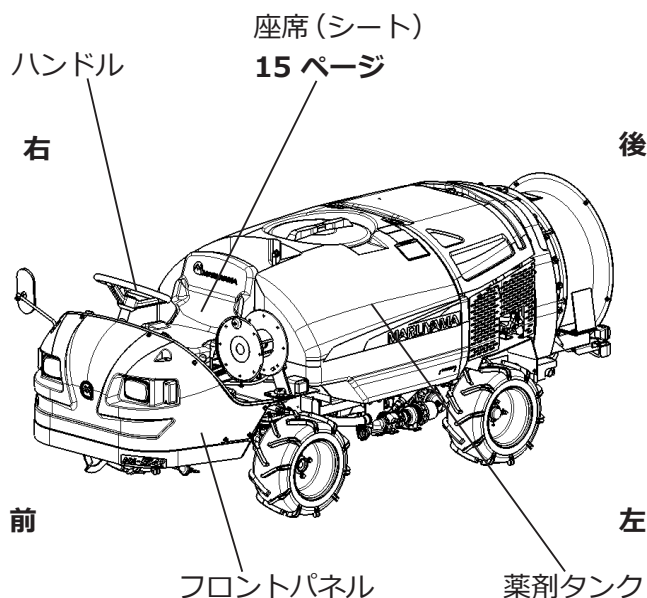


ストッパ /1 個
(199099)
※ クラッチペダル用
66 ページ参照

(2) 各部のなまえ

図中の数字は、当該部品が関連する本取扱説明書のページ番号を示しています。

1) 外観

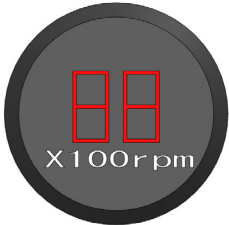


(3) 各部の働き

1) メータ

① タコメータ

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。表示された数値に 100 をかけた値がエンジンの回転速度です。



タコメータ

② アワメータ

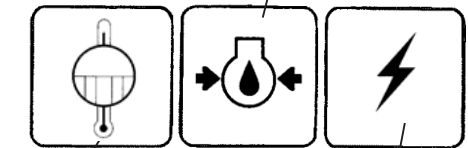
機械の稼働時間を示しており、キースイッチを「入」にすると作動します。初めの 5 桁は時間、最後の 2 桁は 1/100 時間 (0.6 倍すると“分”単位) を示します。



アワメータ

2) 警告灯 (OK モニタ)

オイルプレッシャランプ (油圧警告灯)



水温警告灯

チャージランプ (充電警告灯)

① 水温警告灯

エンジンが過熱状態になると点灯し、警告します。

⚠ 注意



- 水温警告灯が点灯した場合、風通しの良い所へ本製品を移動させ、エンジンをアイドリング状態にしてください。水温警告灯が消灯したらエンジンを停止し、エンジンオイル、冷却水の不足、ファンベルトの張り、ラジエータのスクリーンの詰まり、エアクリーナの詰まりなどを点検してください。度々点灯する場合は、ご購入の販売店に点検を依頼してください。エンジンが破損しているおそれがあり、そのまま使用すると事故に至るおそれがあります。

② オイルプレッシャランプ (油圧警告灯)

エンジン運転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯し、警告します。

⚠ 注意



- オイルプレッシャランプ (油圧警告灯) が、点灯した状態で走行しないでください。エンジンが破損し、事故に至るおそれがあります。



- 運転中にオイルプレッシャランプ (油圧警告灯) が点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、ご購入の販売店へ連絡してください。そのまま放置すると事故に至るおそれがあります。

お知らせ

- 油圧警告灯はオイル量の不足を示すものではありません。

③ チャージランプ (充電警告灯)

エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯し、警告します。

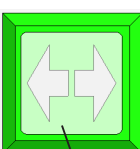
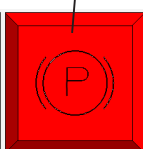
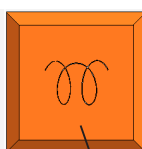
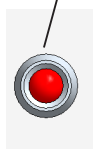
⚠ 注 意



- チャージランプ (充電警告灯) が点灯した場合は、エンジンを停止して 56 ページの「(5) ファンベルトの点検」を参照し、ファンベルトの点検をしてください。ファンベルトに異常がない場合は、ご購入の販売店に点検を依頼してください。
- バッテリーが破損しているおそれがあり、そのまま放置すると事故に至るおそれがあります。

ブレーキ連結解除ランプ (赤)

ブレーキ警告灯



グローランプ

ターンシグナルパイロットランプ
(方向指示器)

④ ターンシグナルパイロットランプ (方向指示器)

ターンシグナルスイッチを操作すると、点滅します。

⑤ ブレーキ連結解除ランプ (赤)

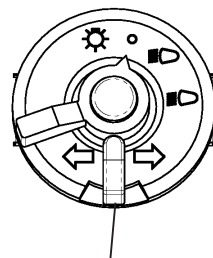
ブレーキペダルのブレーキコネクタを解除し、左右のブレーキが独立している時に点灯し、警告します。

※ ブレーキコネクタの解除については、14 ページの「② ブレーキペダル」を参照してください。

⑥ ブレーキ警告灯

キースイッチが「入」の位置で、駐車ブレーキレバーを引くと点灯し、引いたままの状態であることを警告します。

※ 駐車ブレーキレバーを戻すと消灯します。



ターンシグナルスイッチ

⚠ 注 意



- ブレーキ警告灯が点灯した状態で走行しないでください。
- 駐車ブレーキが破損し、故障に至るおそれがあります。

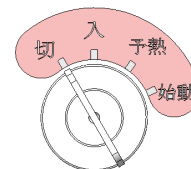
⑦ グローランプ

エンジン始動時、キースイッチが「予熱」の位置で点灯します。予熱が完了すると消灯します。

約 5 秒間予熱後、始動してください。エンジンが始動すると消灯します。

3) キースイッチ

- 「切」 キーを抜き差しする位置です。
※ エンジンが停止し、電流が流れなくなります。
- 「入」 各電装品に電流が流れます。また、エンジン運転中の位置です。
※ エンジンが停止している場合、「オイルプレッシャランプ」と「チャージランプ」が点灯します。
- 「予熱」 グローランプを赤熱。グローの完了はグローランプの消灯で確認します。この位置で手を離すと自動的に「入」に戻ります。
- 「始動」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。手を離すとキーは自動的に「入」に戻ります。
※ エンジンの始動の仕方については、21 ページの「(1) エンジンの始動」を参照してください。



4) コンビネーションスイッチ

① ライトスイッチ

キースイッチが「入」の位置で、「OFF」から右へ回すと点灯します。1 段目がロービーム(下向き)、2 段目がハイビーム(上向き)で点灯します。



お願い

- エンジン停止時に、ヘッドライトなどを長時間点灯させないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

② ターンシグナルスイッチ

キースイッチが「入」の位置で操作してください。ターンシグナルスイッチを右・左に操作すると、本製品の前後・側面にある方向指示器とターンシグナルパイロットランプが点滅します。

③ ホーンスイッチ

キースイッチが「入」の位置で、ラッパマークの部分を押すとホーンが鳴ります。

5) 噴霧用ポンプスイッチ

噴霧用ポンプスイッチを押すと噴霧用ポンプが作動し、ランプが点灯します。もう一度押すとランプが消灯し、噴霧用ポンプが停止します。

噴霧用ポンプスイッチ



⚠ 注意



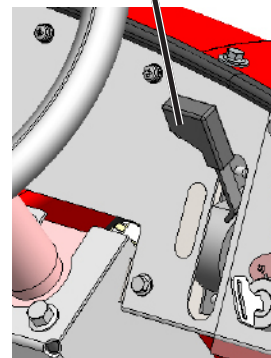
- 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にする場合は、必ずスロットルレバーでエンジン回転速度を1500rpm 以下に調整してから行ってください。1500rpm 以上で作動させると、駆動用電磁クラッチの破損に至るおそれがあります。

7) レバー

① スロットルレバー

スロットルレバーを下げるとエンジン回転速度が上がり、上げるとエンジン回転速度が下がります。

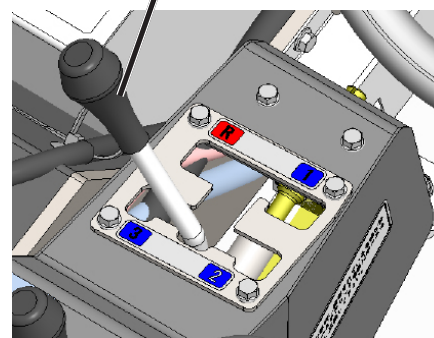
スロットルレバー



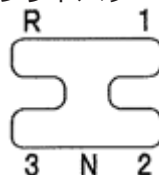
② 主変速レバー

前進 3 段、後進 1 段となっています。用途に合わせてシフトを選択してください。

主変速レバー



【シフトパターン】



③ 副変速レバー

高速・低速の 2 段変速となっています。主変速との組み合わせにより、前進 6 段、後進 2 段の変速ができます。用途に合わせて速度を選択してください。

④ 駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを引き上げるとブレーキ警告灯が点灯し、駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキ解除は、駐車ブレーキレバーを若干手前に引き上げながら、駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し、そのまま手で保持しながら、下方へ静かに下ろします。
※ このとき、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。

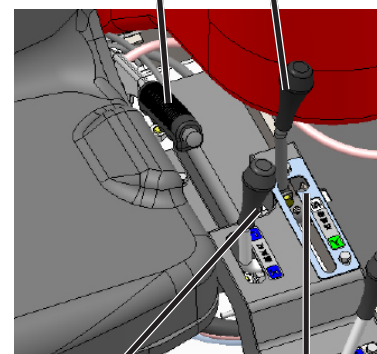
※ 駐車ブレーキレバーを引き上げたまま、主変速レバーを「N」の位置以外に入れると警告ブザーが鳴ります。

⑤ 送風機クラッチレバー

送風機クラッチレバーをストッパから外し、「入」の位置へ操作すると送風機が回転します。送風機を停止させる場合は、送風機クラッチレバーを「切」の位置に操作し、ストッパにかけてください。また、送風機クラッチレバーを「切」の位置にしないとエンジンは始動しません。(始動安全装置)

送風機クラッチレバー

駐車ブレーキレバー



副変速レバー ストッパ

⚠ 注意



- 本製品から離れる場合は、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。

⚠ 注意



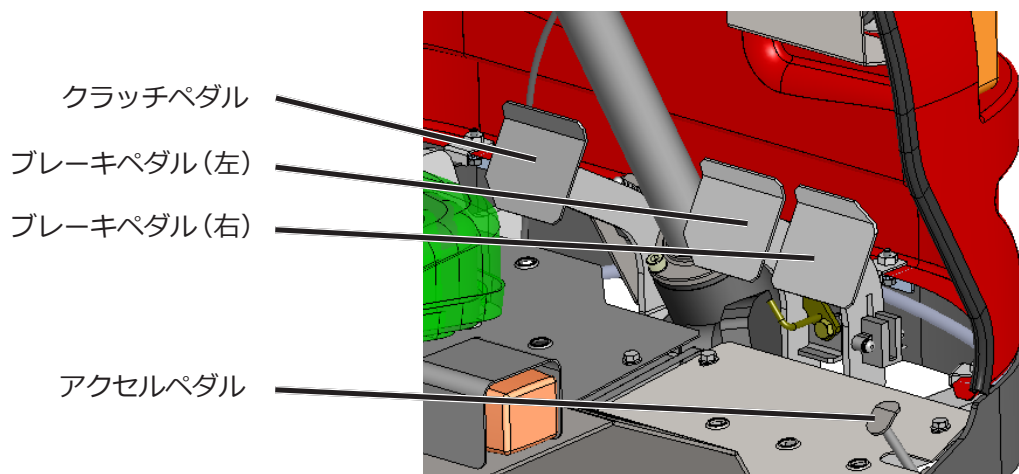
- 送風機クラッチレバーを「入」にする場合は、必ずスロットルレバーでエンジン回転速度を 1500rpm 程度に調整してからゆっくり行ってください。
「入」にする際にゆっくり行わないと、送風機クラッチが破損に至るおそれがあります。

8) ペダル

① アクセルペダル

エンジン回転速度を調整することができます。

移動走行は必ずアクセルペダルを使用してください。



⚠ 注意



- 移動走行ではスロットルレバーを使用しないでください。
スロットルレバーを使用して移動走行すると、事故に至るおそれがあります。

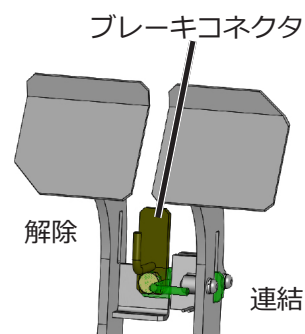
② ブレーキペダル

ブレーキペダルを踏むと減速・停止することができます。

また、ブレーキコネクタを解除することで、左右の車輪を独立して減速させることができます。

※ ブレーキコネクタを解除すると、ブレーキ連結解除ランプが点灯します。連結するとランプは消灯します。

- 連結：ほ場外走行時
- 解除：ほ場内走行時



⚠ 警告



- ほ場以外で運転する場合は、必ずブレーキコネクタを連結させてください。走行前に必ず確認してください。
連結しないで走行すると事故に至るおそれがあります。

③ クラッチペダル

走行用動力の断続を行えます。クラッチを切るときはすばやく、継ぐときはゆっくり操作してください。

お知らせ

- クラッチペダルを踏まないと、エンジンは始動しません。

お願い

- 走行中はクラッチペダルの上に、足を乗せないようにしてください。クラッチが滑り消耗を早めます。

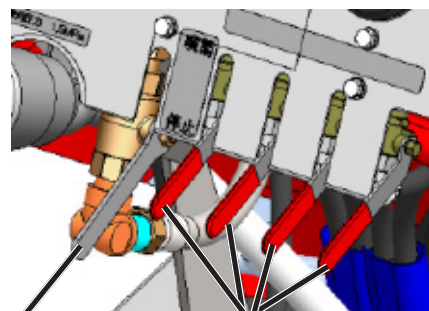
9) 散布装置

① 噴霧メインコック

全てのノズルからの噴霧・停止を一度に操作できます。

② 噴霧コック

4 個の噴霧コックは、左・左中・右中・右の噴霧箇所の選択ができます。



噴霧メインコック

噴霧コック

警告



- 調圧弁の上部にあるキャップを外し、ネジを調整しないでください。
規定圧力以上となり本製品が破損し、事故や重傷に至るおそれがあります。

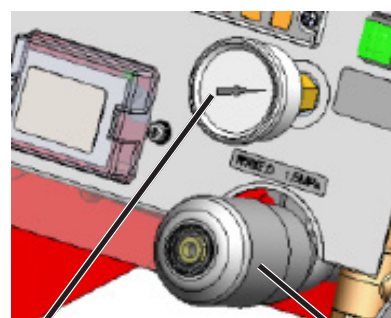
③ 調圧弁

噴霧用ポンプの吐出圧力を調整できます。

噴霧メインコックを「噴霧」にし、圧力計を見ながら握りを回し、所要の圧力に合わせてください。

④ 圧力計

噴霧中の圧力が表示されます。



圧力計

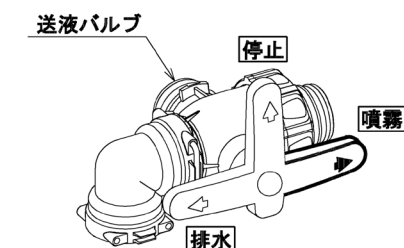
調圧弁

⑤ 送液バルブ

- 噴霧用ポンプを運転する場合は、送液バルブを必ず「噴霧」にしてください。

- 薬剤タンク内の残液を排出する場合は、送液バルブを「排水」にしてください。

- 薬剤タンクに水を給水する場合は、送液バルブを「停止」または「噴霧」にしてください。



送液バルブ

停止

噴霧

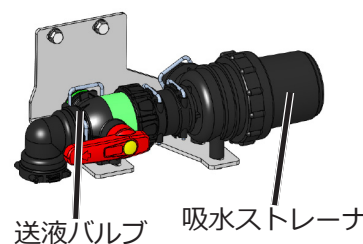
排水

⑥ 吸水ストレーナ

給水時にゴミなどをろ過します。作業後に必ず清掃を行ってください。

⑦ 排水ドレン

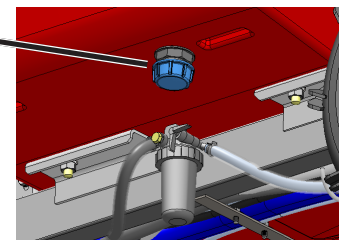
排水ドレンのキャップを外すと排水のスピードが早くなります。排水後は必ずキャップを締めてください。



送液バルブ

吸水ストレーナ

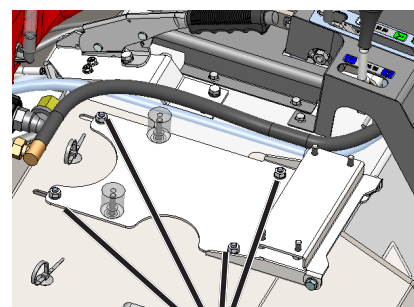
排水ドレン



10) シート

シートの前後の位置は、6 カクボルト (4 本) をゆるめることにより調整できます。

運転しやすい位置に調整ください。



6 カクボルト

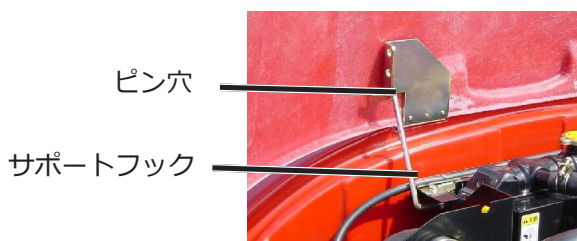
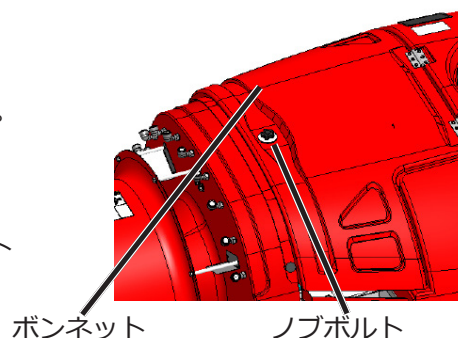
11) ボンネット

■ ボンネットの開け方

- ① ノブボルトをゆるめ、ボンネットを開けてください。
- ② サポートフックをピン穴に差し込んで固定してください。

■ ボンネットの閉め方

- ① ピン穴に入っているサポートフックを外し、ボンネットを閉じてください。
- ② ノブボルトでボンネットを固定してください。



⚠ 警 告



- **ボンネットの開閉は、必ずエンジンを停止して行ってください。**
回転物に巻き込まれ、事故や重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- **強風下でのボンネットの開閉は行わないでください。**
ボンネットが倒れ、けがに至るおそれがあります。

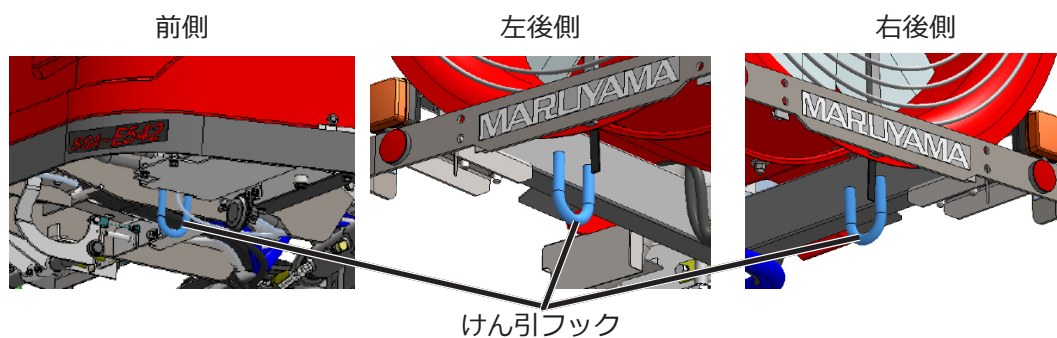


- **ボンネットを閉じる際は、手を挟まないように注意してください。**
けがに至るおそれがあります。
- **ボンネットを閉じた後は、ノブボルトを確実に締めてください。**
運転中または輸送中にボンネットが開き、事故に至るおそれがあります。

12)けん引フック

前方に 1 箇所、後方に 2 箇所あります。

本製品がぬかるみで動けなくなった場合、このフックを利用して前方または後方に引ってください。



⚠ 注 意



- 横方向へのけん引は行わないでください。

本製品が転倒し、事故に至るおそれがあります。また、けん引フックが曲がるおそれもあります。

13) ジャッキアップポイント

警告

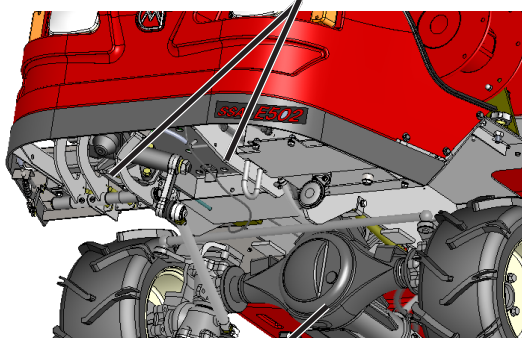


- 薬剤タンクが満水の場合は、ジャッキアップを行わないでください。
バランスを崩した際に下敷きになり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

ジャッキアップする場合は、下図の「ジャッキアップポイント」にジャッキをかけ、「ジャッキスタンドポイント」にジャッキスタンドをかけてください。

前側

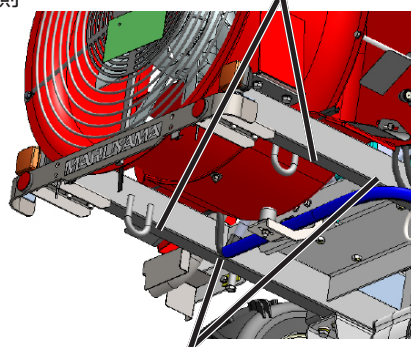
ジャッキスタンドポイント



ジャッキアップポイント

後側

ジャッキスタンドポイント



ジャッキアップポイント
(指示の箇所に角パイプなどを当てて、真ん中をジャッキで上げてください。)

警告



- ジャッキアップは前側を上げてから、後側を上げてください。
本製品が転倒し、事故や重傷に至るおそれがあります。
- 後側からジャッキアップする場合は、前ホーシングの揺動を抑えるストッパを使用してください。
ストッパを使用せずに行くと、本製品が転倒し、事故や重傷に至るおそれがあります。

2. 運転前の準備

(1) 初めてお使いになる場合

■ 公道走行について

本製品は、小型特殊自動車として保安基準に適合しています。保安基準に適合することで、公道を走行することができます。

本製品は道路交通法では普通自動車に該当します。公道を走行する際には、普通自動車の運転免許が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。

■ 標識(ナンバープレート)について

本製品は、道路運送車両法の小型特殊自動車(車体の形状:農業用薬剤散布車)に該当します。小型特殊自動車に該当するため、必ず標識(ナンバープレート)の交付を受ける必要があります。また、本製品は保管場所の確保義務がありますので、保管場所を決めて適切に保管してください。

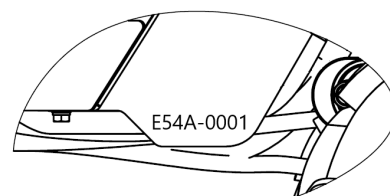
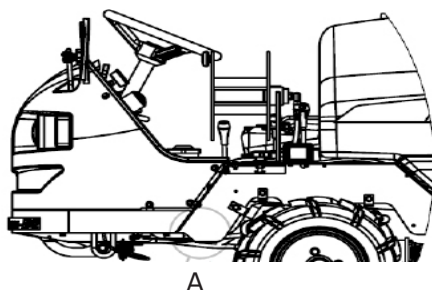
■ 損害賠償保険について

万一の事故に備え、任意保険などに加入することを推奨します。

■ 車体番号打刻位置について

車台番号打刻位置は下図の位置です。

小型特殊自動車	
車名	丸山
型式	SE54A
車台番号	E54A-****



A から見る
車台番号

お願い

- 申請の手続きに関しては、お住いの市町村役場にご相談ください。
- 標識は、本製品後部の防塵網の取付位置に取り付けてください。

お知らせ

- 純正ではない部品の装着や部品の取り外しを行うと、違法改造となることがあります。部品の装着や取り外しについての詳細は、ご購入の販売店に確認してください。

お願い

- 道路交通法を守り、安全に公道を走行してください。

(2) 給油

⚠ 注意



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至るおそれがあります。

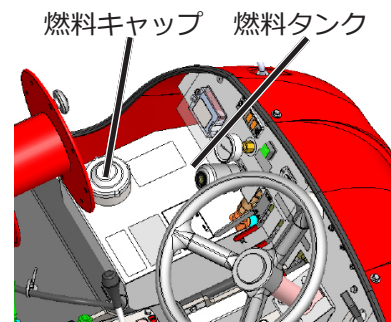
- 軽油は火気厳禁で取り扱ってください。
- 燃料の給油はエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- 燃料の給油は、屋内や換気の悪いところではしないでください。
- 燃料の給油後は、燃料キャップを確実に締めてください
- 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭きとってください。
- 配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥やホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。
- 燃料は消防法令に適合した容器に入れて保管、運搬してください。

お知らせ

- 製品出荷時、運送を安全にするために燃料は少ししか入っていません。

お願い

- 燃料タンクの結露を防ぐため、満タンにして保管してください。

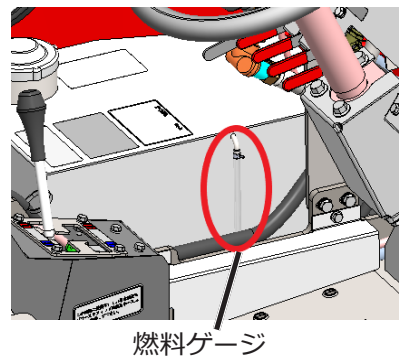


軽油を給油してください(タンク容量 20L)。

- ① 燃料タンクの燃料キャップを外し、燃料タンクに軽油を入れてください。
- ② 軽油を入れ終わったら、燃料キャップを確実に締めてください。

お願い

- 燃料の補給は、燃料タンクが空になる前に行ってください。



3. エンジンの始動と停止

(1) エンジンの始動

 警 告	
	■ ボンネットを開けたまま、エンジンを始動しないでください。 回転物に巻き込まれ、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 室内でエンジンを始動する場合は、十分に換気を行ってください。 一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。 ■ エンジンを始動する前に、周囲を良く見渡し本製品の近くに人、特に小さな子供やペットがいないことを確認してください。 人身事故に至るおそれがあります。 ■ 暖機運転は、室外で行ってください。 一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

お願い

- エンジンを始動する前に、周りをよく見渡し、「これから動きますよ」と合図を送ってから、エンジンを始動させてください。

- ① 駐車ブレーキを掛けてください。
- ② 噴霧用ポンプスイッチを「OFF」にしてください。
- ③ 送風機レバーを「切」にしてください。
- ④ 主変速レバーを「N」にしてください。
- ⑤ スロットルレバーを中ほどまで引いてください。
- ⑥ キースイッチにキーを差し込み「予熱」の状態まで回し固定し、グローランプが消えるまで保持してください。

お知らせ

- 始動安全装置により送風機レバーが「切」の状態でクラッチペダルを踏み、キースイッチを操作しないとエンジンは始動できません。

- ⑦ クラッチペダルをいっばいに踏み込んでください。
- ⑧ キースイッチを「始動」にしてください。

お願い

- 冷え込んだ時などでエンジンが1回で始動しない場合は、セルモータを回す時間は15秒以内に行ってください。再度行う場合はバッテリーの電圧を回復させるために、30秒ほど時間を空けてから行ってください。
- エンジンが始動したら、キースイッチから直ちに手を放してください。

- ⑨ エンジンに異常がないことを各警告灯で確認してください。
 ※ エンジンから異音がする場合はエンジンを停止し、原因を調べてください。原因が分からない場合は、ご購入の販売店に連絡してください。
- ⑩ 5 分ほど暖機運転をしてください。
 ※ ブレーキ警告灯以外が点灯している場合は、すぐにエンジンを停止し適切な処置を行ってください
(46 ページの「8. 保守点検 (点検整備方式)」を参照してください
 ※ エンジンから異音がする場合はエンジンを停止し、原因を調べてください。原因が分からない場合は、ご購入の販売店に連絡してください。

⚠ 注 意	
	■ エンジン運転中は、キースイッチを「始動」の位置にしないでください。 故障に至るおそれがあります。 ■ エンジン始動直後はエンジンが冷えた状態のため、エンジン回転速度を急に上げたり、高回転に調整したりしないでください。 故障に至るおそれがあります。
	お願い ■ 排気の状態に異常がないかを確認してください。通常と異なる場合は、ご購入の販売店へ相談してください。

(2) エンジンの停止

- ① スロットルレバーを「低速」にしてください。
- ② 「低速」のまま 5 分ほど冷却運転を行ってください。
- ③ キースイッチを「切」にしてください。

⚠ 注 意	
	■ 本製品のエンジンが停止直後の場合は、マフラーやマフラーカバー、エンジン本体は熱くなっています。高温部分には触らないでください。 高温部への接触により、火傷に至るおそれがあります。

(3) 慣らし運転

新車時 (製品購入時から 50 時間) の取り扱いは、本製品の寿命や性能に影響します。この期間中は、特に下記に注意してください。

- エンジン始動後は、暖機運転を十分に行ってから作業を始めてください。
- 本製品を使い始めてから 50 時間目には、**46 ページの「8. 保守点検 (点検整備方式)」**を参照して点検をしてください。

4. 運搬の仕方

(1) 走行運転の仕方

⚠ 危険	
	■ 枯れ葉や紙、木材、油などの可燃物の上や近くには駐停車しないでください。 マフラーや排気口、排気ガスは高温になるため着火し、火災や事故に至ります。 ■ 車両後方に木材などの可燃物があるときは、車両後端から十分に距離をとって停止させてください。 距離をとらないと排気ガスにより着火し、火災や事故に至ることがあります。また、変色に至ります

可燃物の上や近くに駐停車しない！

⚠ 警告	
	■ 最大積載量（薬剤タンク満水と付属品搭載）以上は積まないでください。 制動距離が延び、事故に至るおそれがあります。また、本製品が破損に至るおそれがあります。
	■ 走行する前に、必ず駐車ブレーキを解除してください。 解除せずに走行するとブレーキが過熱され、ブレーキの効きが悪くなり事故に至るおそれがあります。また、動力伝達装置が故障に至るおそれがあります。 ■ 走行運転時は、必ずアクセルペダルを使用してください。 スロットルレバーを使用するとエンジンブレーキが使用できなくなり、駆動力が大きいため障害物に衝突してもエンジンが停止せず、事故に至るおそれがあります。 ■ 坂道を走行する際は、本製品が転落しないように十分注意してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注意	
	■ 運転者以外に人や物を乗せないでください。 安全が確保できず、事故に至るおそれがあります。 ■ 走行しながら主変速・副変速レバーの操作を行わないでください。 故障に至るおそれがあります。
	■ 運転者はヘルメットを着用してください。 着用せずに事故が起きた際に、けがに至るおそれがあります。 ■ 発進する時は周囲の安全を確認してください。 安全の確認を怠ると、事故に至るおそれがあります。 ■ クラッチペダルは、ゆっくり離してクラッチをつないでください。 クラッチペダルを急に離すと急発進し、事故に至るおそれがあります。 ■ 狭い農地や路肩のある場所は走行スピードを下げ、十分注意して走行してください。 事故に至るおそれがあります。

お願い

- 乗車定員は1名です。運転者以外は乗車させないでください。
- 緊急時以外は高速運転、急発進、急加速、急制動、急旋回を行わないでください。

1) 発進の仕方

- ① エンジンを始動してください。
- ② クラッチペダルをいっぱいに踏んでください。
※ クラッチが切れます。

お願い

- 走行中はクラッチペダルの上に、足を乗せながら走行しないでください。クラッチの消耗を早めます。

- ③ 主変速レバーおよび副変速レバーを、任意の位置に確実に入れてください。
※ 各変速レバーが入りにくい場合は、クラッチペダルを踏み直してください。
- ④ 駐車ブレーキレバーを解除してください。
- ⑤ アクセルペダルを徐々に踏み込み、エンジン回転速度を上げてください。
- ⑥ クラッチペダルを徐々に離して、発進させてください。

⚠ 警 告



- 下り坂を走行中にクラッチペダルを踏まないでください。
エンジンブレーキが効かず、事故に至るおそれがあります。



- 坂道では走行スピードに注意してください。
高速で走行すると、事故に至るおそれがあります。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。
ブレーキペダルを使用し続けると、ブレーキが過熱されブレーキの効きが悪くなり、事故に至るおそれがあります。

お願い

- 私道・農地であっても、交通法規を守って運転してください。
- 路肩が分かるように雑草を刈り取ってください。

■ ほ場の出入りについて

ほ場への出入りについては、副変速を「低速」にし、主変速を「1 速」で行ってください。

⚠ 警 告



- ほ場への出入りの際、坂道に対して斜めに走行しないでください。
本製品が転倒し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

2) 停車・駐車の仕方

⚠ 注 意



- 本製品から離れる場合は、必ず駐車ブレーキを掛けエンジンを停止し、キーを抜いてください。
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。
- 坂道で駐車する場合は、駐車ブレーキを確実にかけエンジンを停止し、主変速を「1」または「R」に入れてください。急な坂道の場合は、タイヤに歯止めをしてください。
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。

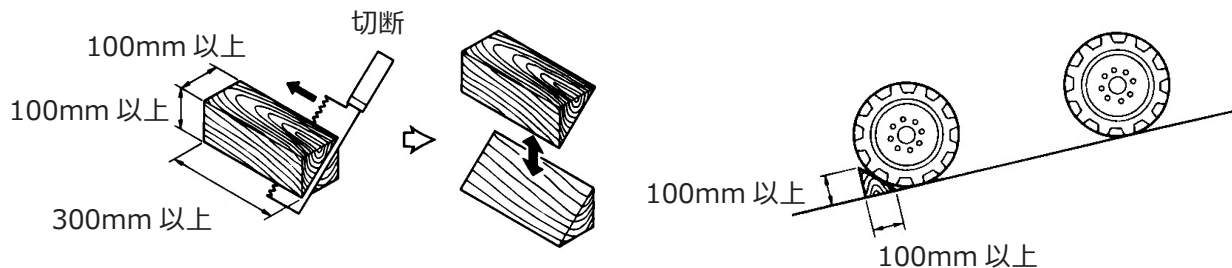
- ① アクセルペダルをゆるめ、エンジン回転速度を低速にしてください。
- ② クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込み、本製品を停止させてください。

- ③ 主変速レバーを「N」にしてください。
- ④ 駐車ブレーキレバーを引き、駐車ブレーキを掛けてください。
- ⑤ クラッチペダルとブレーキペダルから、足をゆっくり離してください。
- ⑥ キースイッチを「切」の位置にして、エンジンを停止してください。

■ 歯止めについて

安全に本製品を駐車させるために、下記形状の歯止めを 2 個準備し、歯止めをしてください。

- a) 100mm 角以上、長さ 300mm 以上の木材を用意し、対角に切断してください。
- b) 歯止めは、傾斜が下り側の左右のタイヤに対して、下図のように行ってください。



(2) トラックへの積み込み方

トラックへの積み込み作業は、大変危険な作業です。安全に十分注意して行ってください。

 警 告	
	■ 積み込み作業中は、作業に関係のない人を周囲に近づけないでください。 事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 他の作業者に誘導をお願いする場合は、本製品の進行方向の直前、直後には立たせないでください。 誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 積み込み作業は平坦な場所で行い、他の作業者の誘導のもとに行ってください。 事故に至るおそれがあります。 ■ 積み込み作業をする際は、薬剤タンクを空にしてください。 薬剤が入っていると本製品が傾いた時に転落し、事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ トラックへの積み込み時は、15 度以下の傾斜角で積み込んでください。それ以外のときは、10 度以下の領域で使用してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

お願い

- 道路交通法を違反しないように、本製品の寸法や重量を確認してから積み込んでください。
- 最大積載量 2000kg 以上のトラックを使用してください。

■ アユミ板の場合

 警 告	
	■ アユミ板は十分な強度と長さ、板幅のある滑り止め付きのものを使用してください。 本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

- ① 右記条件に合い、積み込み角度が 15 度以下になる長さのアユミ板を準備してください。
- ② トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、駐車ブレーキを掛けた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。

アユミ板の条件

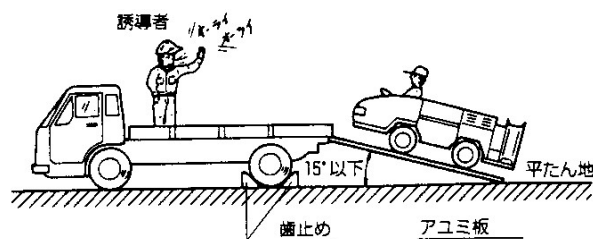
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 500kg 以上の重さに耐えるもの

⚠ 警 告



- **アユミ板は段差・ずれのないように確実にかけてください。**
アユミ板が外れ本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

- ③ 荷台に段差ができないように、アユミ板のフックをかけてください。
※ ずれのないように確実にかけてください。
- ④ 本製品のエンジンを始動し、副変速を「低速」にし、主変速を「1 速」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑤ 本製品をアユミ板の手前まで移動させ、アユミ板の中央に左右前後輪の中心を合わせ、アユミ板と平行になっているか確認し、斜面に対して直角になるよう前進で荷台へゆっくり積み込んでください。
※ 万一途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込んでください。その後、徐々にブレーキをゆるめ、下まで降ろしてください。



⚠ 警 告



- **積み込み作業中にエンストした場合は、絶対にクラッチを先に踏み込まないでください。**
クラッチを先に踏むと本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。

- ⑥ トラックへ積み込み終わったら駐車ブレーキを掛け、主変速レバーを「1 速」に入れたままエンジンを停止してください。
- ⑦ けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。
※ けん引フックについては、**17 ページの「12) けん引フック」**を参照してください。

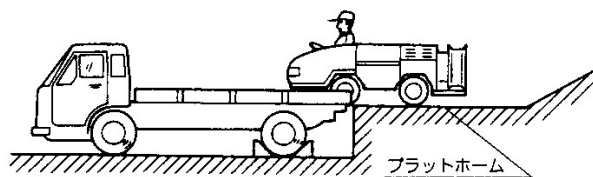
⚠ 注 意



- **荷台に積み込んだ後は、けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。**
トラックが急ブレーキを掛けた時に、荷台から本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

■ プラットホームの場合

- ① トラックの荷台と同じ高さで、平坦なプラットホームを利用してください。
- ② トラックを右図のように駐車してください。
- ③ トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、駐車ブレーキを掛けた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。
- ④ 本製品のエンジンを始動し、副変速を「低速」にし、主変速を「1 速」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑤ 前進で荷台へゆっくり積み込んでください。
- ⑥ トラックへ積み込み終わったら駐車ブレーキを掛け、主変速レバーを「1 速」に入れたままエンジンを停止してください。
- ⑦ けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。
※ けん引フックについては、**17 ページの「12) けん引フック」**を参照してください。



(3)トラックからの降ろし方

トラックから降ろす作業は、大変危険な作業です。安全に十分注意して行ってください。

 警 告	
	■ 本製品を荷台から降ろす際は、作業に関係のない人を周囲に近づけないでください。 誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 他の作業者に誘導をお願いする場合は、本製品の進行方向の直前、直後には立たせないでください。 誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 本製品を荷台から降ろす際は平坦な場所で行い、他の作業者の誘導のもとに行ってください。 本製品を転落させ、事故または重傷に至るおそれがあります。 ■ トラックから降ろす際は、15度以下の傾斜角で降ろしてください。それ以外のときは、10度以下の領域で使用してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

■ アユミ板の場合

- ① トラックの変速を「1速」または「R」に入れ、駐車ブレーキを掛けた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。
- ② 積み込みで使用したアユミ板を準備してください。
- ③ 荷台に段差ができないように、アユミ板のフックを掛けてください。
※ ずれのないように確実に掛けてください。
- ④ 本製品を固定しているロープを解いてください。
- ⑤ 本製品のエンジンを始動し、副変速を「低速」にし、主変速を「R」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑥ 駐車ブレーキを解除し、本製品をアユミ板の手前まで移動させ、アユミ板の中央に左右前後輪の中心を合わせ、アユミ板と平行になっているか確認し、斜面に対して直角になるように後進で荷台からゆっくり降ろしてください。

■ プラットホームの場合

- ① トラックの荷台と同じ高さで、平坦なプラットホームを利用してください。
- ② 積み込みで行ったようにトラックを駐車してください。
- ③ トラックの変速を「1速」または「R」に入れ、駐車ブレーキを掛けた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。
- ④ 本製品を固定しているロープを解いてください。
- ⑤ 本製品のエンジンを始動し、副変速を「低速」にし、主変速を「R」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑥ 駐車ブレーキを解除し、後進で荷台からゆっくり降ろしてください。

5. 始業点検（作業前点検）

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

⚠ 警 告



- 始業点検は 46 ページの「8. 保守点検（点検整備方式）」に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- 始業点検は平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止して行ってください。
点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

始業点検一覧表

点 検 項 目			点 検 方 法	整備の方法
制動装置	ブレーキペダル	遊び	5~10mmの間か 63 ページの「1) ブレーキペダルの点検」 を参照し、確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		踏みしろ	ペダル先端のストロークが70mm以下か、ペダルを軽く踏み込んで確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ブレーキの効き具合	低速で走り停止できるか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	駐車ブレーキレバー	引きしろの余裕	通常に引き6~8ノッチの間かを 64 ページの「(17) 駐車ブレーキの点検」 を参照してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ブレーキのきき具合	低速で走り停止できるかを 64 ページの「(17) 駐車ブレーキの点検」 を参照してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ラチェット部の摩耗・損傷	引いた状態で固定できるかを確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
走行装置	タイヤ	空気圧	基準値 $\pm 10\text{kPa}$ 以内か確認してください。	62 ページの「(14) タイヤの点検」 を参照してください。
		亀裂・損傷	亀裂および損傷がないか確認してください。	62 ページの「(14) タイヤの点検」 を参照してください。
		ラグの高さ・異常な摩耗	タイヤ中央ラグ高さ 5mm 以上あるか確認してください。	62 ページの「(14) タイヤの点検」 を参照してください。
		異物の付着	異物が付着していないか	除去してください。

点 検 項 目			点 検 方 法	整備の方法
走行装置	ホイール	タイヤの状態	タイヤとホイールがずれていないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		リム・ホイールディスクなどの損傷	変形がないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	クラッチ	ペダルの遊び・踏みしろ	遊びペダル先端 15~25mm の間か 63 ページの「2) クラッチペダルの点検」 を参照し、確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ロッド・ケーブル類のゆるみ・がた・損傷	目視および手で触れて確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
Vベルト		損傷	傷、異常摩耗がないか目視にて確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
原動機	始動装置	かかり具合	始動時異常音がないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	充電装置	充電作用	エンジン始動時充電ランプが消えるか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	バッテリー	液量	規定線以内か確認してください。	61 ページの「(13) バッテリーの点検」 を参照してください。
		ターミナル部の接続状態	手でゆるまないか確認してください。	61 ページの「(13) バッテリーの点検」 を参照してください。
	本体	かかり具合・異常音	正常にエンジンが始動するか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		低速・加速の状態	異常音がしないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		排気の状態	異常と感じる黒煙がでていないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		エアクリーナエレメントの状態	ゴミの付着が少ないか目視にて確認してください。	54 ページの「(2) エア クリーナエレメントの点検」 を参照してください。
	潤滑装置	オイルの汚れ・量	油面がゲージ内にあるか、黒くないか確認してください。	55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」 を参照してください。

6. 作業の準備

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- 燃料を取り扱う前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂をかけるためのスコップなど）を準備してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は 3 ページの「正しい服装の一例」を参照してください。

警告



- 体を露出しないように、防水性保護衣や保護具などを必ず装着してください。体が露出していると薬剤が体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

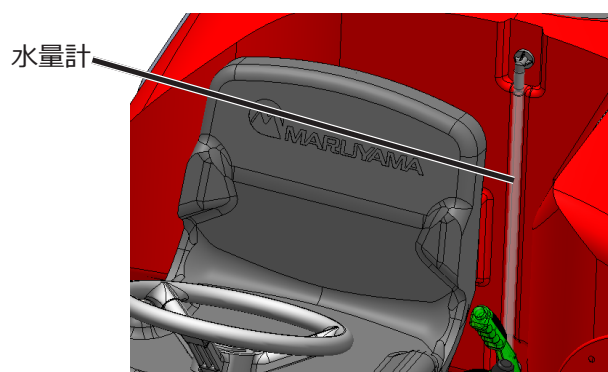
(2) 給水

警告



- 飲料水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。農薬による汚染のおそれがあります。また、飲料水源を汚染すると法律により、罰せられることがあります。

薬剤タンクに必要量の水を入れてください。



お知らせ

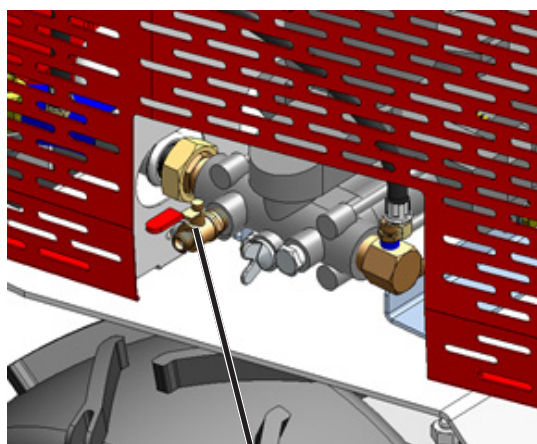
- 給水設備のない時は、オプション（別売）の純正ジェットポンプを使用すると便利です。

■ ジェットポンプ (別売) を使用する場合の給水の仕方

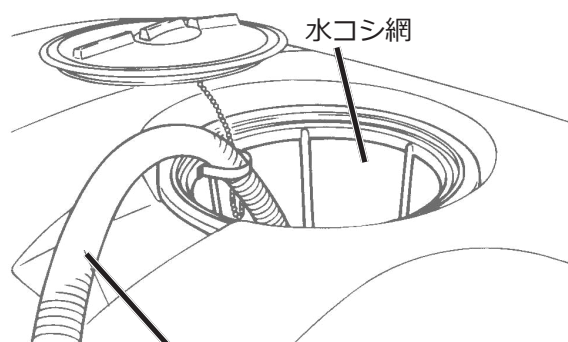
- ① 補助用コックを「閉」の状態にしてジェットポンプのホースを接続してください。
- ② ジェットポンプのストレーナ側を水源に投げ込み、ホース先端を薬剤タンクの水コシ網にかけてください。
- ③ 薬剤タンクに 20L 程度の呼び水を入れてください。
- ④ 噴霧コック、補助用コックが閉じていることを確認し、噴霧用ポンプスイッチを「ON」にしてください。
- ⑤ スロットルレバーを中ほどの位置にしてください。
- ⑥ 調圧弁のダイヤルを回し、圧力を 2.5MPa に調節してください。
- ⑦ 補助用コックを「開」にします。
- ⑧ 薬剤タンクの水量目盛を目安に、散布に必要な水量が給水されたら、コックを「閉」にしてください。

お知らせ

- 噴霧用ポンプの給水ホースを取り外すときは、配管内に少し残った水が出ますので注意してください。



補助用コック



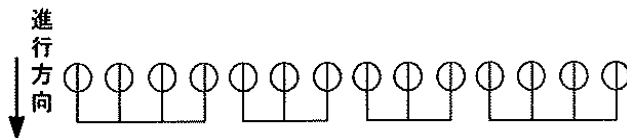
給水ホース

(3) ノズルの選定

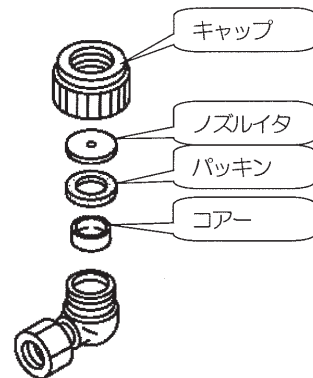
本製品の標準出荷時は、下記の通りにノズルが取り付けられています。標準出荷ノズルでは、所要の 10a 当たり散布量を確保できない場合は、**34 ページ・35 ページの「ノズル個数選定表(広角タイプ中子使用)」**を参照し、ノズル板を選定して交換してください。

お願い

- 長時間使用するとノズル板が摩耗し、吐出量が多くなりますのでノズル板を交換してください。



① $\phi 1.4$ 14個



■ ノズル吐出量表 (広角タイプの中子の場合)

圧力	1MPa	1.5MPa
噴口径 (Φ)	吐出量 (L/min)	
0.7	0.66	0.81
0.8	0.78	0.96
0.9	0.96	1.18
1.0	1.08	1.32
1.1	1.23	1.51
1.2	1.37	1.68
1.3	1.48	1.81
1.4	1.66	2.03
1.5	1.76	2.15
1.6	2.01	2.46
1.8	2.32	2.84
2.0	2.62	3.21
2.1	2.75	3.36

※ 実際の吐出量は、ホースの抵抗などがある為、上記数値とは異なる場合があります。

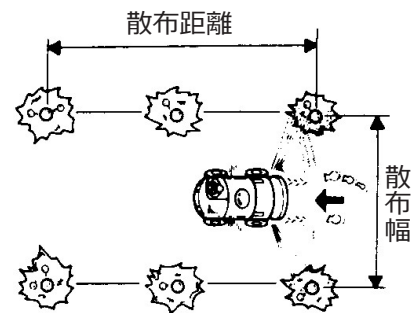
■ ノズル吐出量表 (到達タイプの中子の場合)

圧力	1MPa	1.5MPa
噴口径 (Φ)	吐出量 (L/min)	
0.7	0.72	0.88
0.8	0.95	1.16
0.9	1.21	1.48
1.0	1.49	1.83
1.1	1.78	2.18
1.2	2.15	2.63
1.3	2.37	2.90
1.4	2.77	3.39
1.5	3.10	3.80
1.6	3.49	4.28
1.8	4.25	5.20
2.0	5.06	6.20
2.1	5.48	6.71

※ 実際の吐出量は、ホースの抵抗などがある為、上記数値とは異なる場合があります。

1) ノズル個数選定表の見方

- 各散布速度 (低速 -1 速, 低速 -2 速, 低速 -3 速) で、10a 当たり最大散布できる量を散布幅ごとに示してあります。
- 散布速度欄の分 / 10a は、各散布速度ごとの散布作業時間を示してあります。
- 散布距離は、各散布幅で走行した時の 10a 当たりの走行距離です。
- 単一のノズル板で組み合わせをする場合は、表の右端が最大使用可能個数です。



⚠ 注意



- ノズル選定表左側の最大散布量を超えないように、ノズル板を選定してください。噴霧用ポンプの能力を超え、故障に至るおそれがあります。

例) 散布幅 4.5m、散布量 150L/10a、低速 -1 速で散布したい場合は、ノズル穴径をΦ 1.1 のみとすると、12 個取り付けることになります。

ノズルは総数 14 個、残り 2 個は無穴を取り付けることになります。

※ ノズル選定表は、ホースのヘッドロスなどを考慮して、ノズル吐出量に係数 0.8 をかけてあります。

2) ノズルの組み合わせ方

標準出荷ノズルにおいて、散布速度 1.4km/h (低速 -1 速)、散布幅 4.5m で 10a 当たり 250L 散布したい場合に組み合わせられるノズルを求めてください。

① ノズル個数選定表で、散布幅 4.5m の表を開いてください。

② 低速 -1 速の欄よりノズル板を組み合わせてください。

③ 使用したいノズル板を選定してください。

※ ここでは、ノズル穴径Φ 1.3 で 150L/10a、その他のノズルで 100L/10a 散布するとします。

④ Φ 1.3 のノズル板で、150L/10a は 10 個となります。

⑤ ノズル総数 14 個より 10 個を差引くと、残りの使用可能個数は 4 個になります。

⑥ ⑤で 150L/10a のノズル個数を決めていますので、残りのノズルで 100L/10a をノズル個数が 4 個となるよう組み合わせてください。

⑦ Φ 1.8 × 4 個 (100L/10a) が選定できます。

$$\begin{array}{r} \Phi 1.3 \times 10 \text{ 個 (200L/10a)} \\ +) \quad \Phi 1.8 \times 4 \text{ 個 (100L/10a)} \\ \hline 14 \text{ 個 (250L/10a)} \end{array}$$

※ 色々な組み合わせができますので、ほ場形態や作物形態に合わせて組み合わせてください。

■ その他の組み合わせ例

(低速 -1 速、幅 6m、200L/10a)

$$\begin{array}{r} \Phi 1.4 \times 8 \text{ 個 (100L/10a)} \\ +) \quad \Phi 1.6 \times 6 \text{ 個 (100L/10a)} \\ \hline 14 \text{ 個 (200L/10a)} \end{array}$$

お願い

- ノズル個数選定表にない散布幅や圧力で行いたい場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。
- 実際のほ場では地盤の状態が様々ですので、散布速度にズレが生じます。実際にほ場内を走行し、散布量を補正することを推奨します。

ノズル個数選定表(広角タイプ[○]中子使用)

[illegible][illegible]

ノズル個数選定表(広角タイプ中子使用)

散布幅 7 (m)		散布距離 143 (m/10a)											
散布速度	ノズル径	散布量 (ℓ/10a)											
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600
L-1	0.8	9											
	0.9	1.1	8										
	1.0	1.2	7	14									
6.1	1.1	1.4	6	12									
	1.2	1.5	5	11									
	1.3	1.6	5	10									
分/10a	1.4	1.8	4	9	13								
	1.5	1.9	4	8	13								
	1.6	2.2	4	7	11								
	1.8	2.6	3	6	10								
	2.0	2.9	3	6	8								
L-2	0.8	0.9											
	0.9	1.1	12										
	1.0	1.2	10										
4.1	1.1	1.4	9										
	1.2	1.5	8										
	1.3	1.6	8										
分/10a	1.4	1.8	7	13									
	1.5	1.9	6	13									
	1.6	2.2	6	11									
	1.8	2.6	5	10									
	2.0	2.9	4	8									
L-3	0.8	0.9											
	0.9	1.1											
	1.0	1.2											
2.2	1.1	1.4											
	1.2	1.5											
	1.3	1.6	14										
分/10a	1.4	1.8	12										
	1.5	1.9	12										
	1.6	2.2	10										
	1.8	2.6	9										
	2.0	2.9	8										

ポンプ吸水

35.3 (ℓ/分)

噴霧圧力

1.5 (MPa)

散布速度

1.4 (km/時)

L-1

L-2

L-3

ノズル数

14 (個)

最大散布量

195 (ℓ/10a)

L-1

L-2

L-3

散布幅 8 (m)		散布距離 125 (m/10a)											
散布速度	ノズル径	散布量 (ℓ/10a)											
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600
L-1	0.8	9	11										
	0.9	1.1	9										
	1.0	1.2	8										
5.4	1.1	1.4	7	14									
	1.2	1.5	6	12									
	1.3	1.6	6	11									
分/10a	1.4	1.8	5	10									
	1.5	1.9	5	10									
	1.6	2.2	4	8	13								
	1.8	2.6	4	7	11								
	2.0	2.9	3	6	10								
L-2	0.8	0.9											
	0.9	1.1	13										
	1.0	1.2	12										
3.6	1.1	1.4	10										
	1.2	1.5	9										
	1.3	1.6	9										
分/10a	1.4	1.8	8										
	1.5	1.9	7										
	1.6	2.2	6	13									
	1.8	2.6	5	11									
	2.0	2.9	5	10									
L-3	0.8	0.9											
	0.9	1.1											
	1.0	1.2											
1.9	1.1	1.4											
	1.2	1.5											
	1.3	1.6											
分/10a	1.4	1.8											
	1.5	1.9	13										
	1.6	2.2	12										
	1.8	2.6	10										
	2.0	2.9	9										

ポンプ吸水

35.3 (ℓ/分)

噴霧圧力

1.5 (MPa)

散布速度

1.4 (km/時)

L-1

L-2

L-3

ノズル数

14 (個)

最大散布量

170 (ℓ/10a)

L-1

L-2

L-3

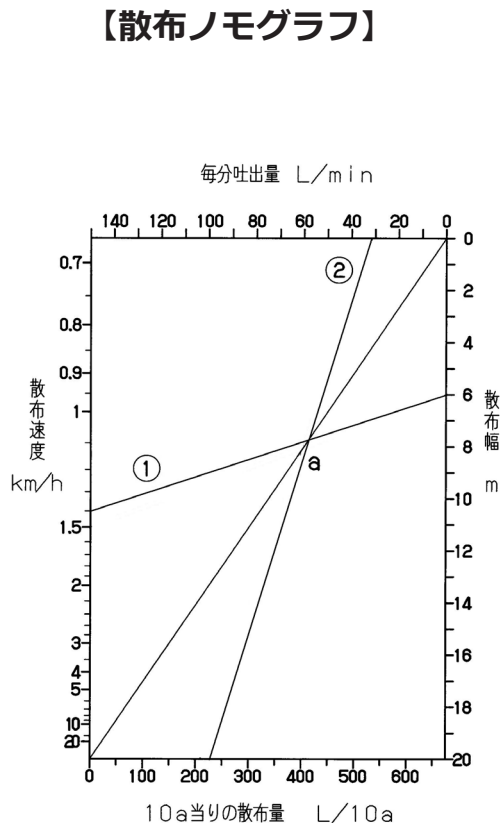
3) 散布ノモグラフの使い方

- ① グラフにおいて所要の散布速度及び散布幅を直線で結んでください。
例) 散布幅 : 6m、散布速度 : 1.4 km/h
- ② この直線と対角線の交点「a」と「10a 当たりの散布量」を結んで延長してください。
※上部横軸の交点が「毎分の吐出量」になります。
※この例ではノズル吐出量を 31.5L/min とした場合、10a 当り 227L 散布可能ということです。

ノズル吐出量は、**36 ページの「4) エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係」**より読み取った噴霧用ポンプ吐出量を、下記計算式に当てはめて計算してください。

$$\text{最大ノズル吐出量} = (\text{噴霧用ポンプ} \times 0.9)$$

このノズル吐出量が噴霧用ポンプ吐出量の 91% 以上の場合は、動噴の能力不足ですので散布速度を一段遅くしてください。



お願い

- 実際には、タイヤのスリップなどでズレが生じますので、散布したい速度では場の散布経路を走行し、実速度を測定することを推奨します。
- ノズル噴霧量が、噴霧用ポンプ吐出量の 90% 以下になるように設定してください。

4) エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係

エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係がグラフから読み取ることができます。

■ グラフの使い方

「エンジン回転速度」を 2300rpm、「散布速度」を L-2 速、の場合は、「エンジン回転速度」の縦線や「散布速度」L-2 速、吐出量、との交点部を横に読み取ってください。

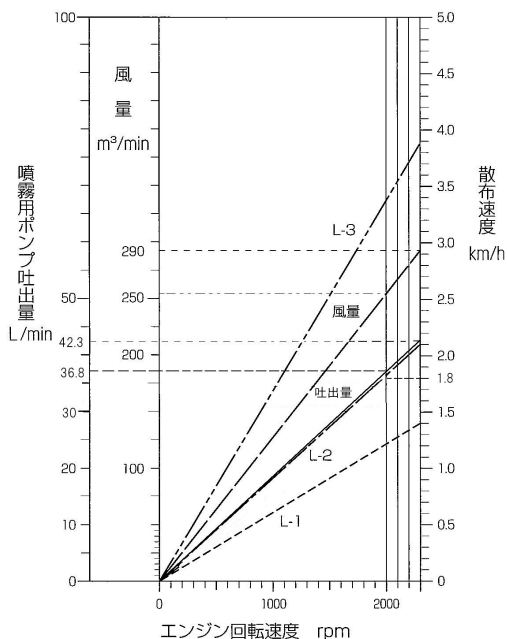
速度 : 2.1km/h

吐出量 : 42.3L/min

風量 : 290m³/min となります。

例えば、速度を 1.8km/h にしたい場合は、散布速度 1.8km/h を横に見ていき、L-2 速との交点を下に見て、エンジン回転速度を読み取ってください。

※ 交点を上に見ていき、風量と吐出量の線との交点を横に見ると、風量と吐出量が分かります。



エンジン回転速度 : 2000rpm 変速段数 : L-2 吐出量 : 約 36.8L/min 送風機風量 : 約 250m³/min

吐出量は噴霧用ポンプの全吐出量を表しているの、ノズル吐出量は **36 ページの「3) 散布ノモグラフの使い方」**の最大ノズル吐出量の計算式で、噴霧用ポンプ吐出量を上記数字に入れ替えて計算してください。

(4) 噴霧確認

薬剤を調合する前に清水で運転し、異常が無いかを確認してください。また、噴霧確認が完了した後に、ほ場で試し散布をしてください(散布方法については **41 ページ**の「(1) 散布作業」を参照してください)。試し散布を行い調整が必要な場合は、再度調整してください。

⚠ 警 告



- 噴霧確認は薬剤を使用せず、清水で行ってください。
農薬を被曝し、薬害に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



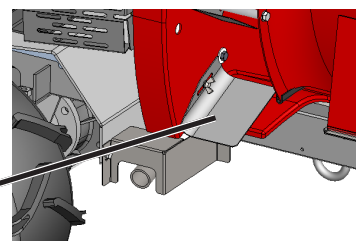
- 噴霧用ポンプを 30 秒以上空運転しないでください。
空運転を行うと噴霧用ポンプが故障に至るおそれがあります。

1) 噴霧確認

- ① 薬剤タンクに水を入れ、エンジンを始動し、噴霧用ポンプスイッチを「ON」にしてください。
- ② 噴霧メインコックを「噴霧」にしてください。
- ③ 噴霧コックを「噴霧」にし、下記の状態を調べてください。
 - ノズルにゴミなどの詰まりがないか点検してください。
 - 各噴霧コックの開閉状態を調べてください。

2) 風向の確認

- ① 送風機を作動させ、風の出る方向を確認してください。
- ② 散布対象の樹形に合わせて、角度調節板(オプション)で調節してください。



角度調節板
(オプション)

(5) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は、事前に取り除いてください。

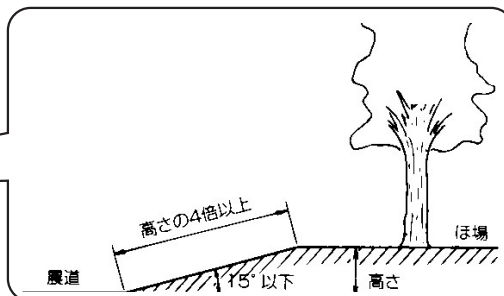
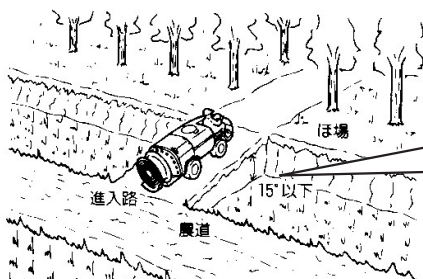
⚠ 注 意



- 作業現場に障害物がないことを、作業前に十分に確かめてください。
障害物の近くで作業をすると、事故に至るおそれがあります。

■ ほ場の出入口

ほ場への進入傾斜角度は、15 度以下になるようにしてください。進入路が軟弱な場合は、小石やコンクリートなどで地盤を固め、進入路を整備してください。また、ほ場内や、ほ場までの移動路も整備してください。



⚠ 警 告

	■ 本製品をほ場に入れる前に、ほ場の出入口を整備してください。 整備が不十分の場合は本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ ほ場進入時は、15 度以下の傾斜角で使用してください。それ以外のときは、10 度以下の傾斜角で使用してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
---	---

■ 走行路

本製品をほ場に入れる前に、走行路を整備してください。走行路は効率の良い防除効果が得られるよう、樹形、地形などの状況を考慮して決定してください。

■ 樹形について

走行に支障のある枝は切るか、支柱を立て支障のないようにしてください。

走行路の道幅は、ほ場までの移動路も含め 2m 以上にしてください。また、旋回する場所は 2.5m 以上にしてください。傾斜地の場合は、上記より 0.5m ほど幅を広くしてください。

⚠ 警 告

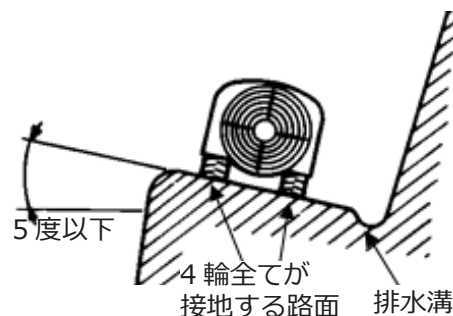
	■ 谷側に傾斜のついた走行路は、走行しないでください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
	■ 路肩は石積みやコンクリートなどで補強してください。 路肩が崩れ本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ 路肩が見えるように雑草は刈り取ってください。 路肩が分からず本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

お願い

- 走行路にワラなどを敷かないでください。走行中にスリップしたり、送風機を動かした際に風の巻き上げで送風機に貼り付き、散布作業や走行の妨げになります。
- 走行路の整備後に、本製品で試走してください。枝や路面上に支障のあるものがあった場合は、すぐに処置してください。

■ 傾斜地での走行路の作り方

傾斜地での走行路は旋回する場所も含め、斜面に対しての傾斜は 10 度以下にしてください。横向きの傾斜は 5 度以下とし、4 輪全てが接地する路面にしてください。



お願い

- 急坂路では等高線にそって道路を作り、地盤を固めてください。

(6) 作業計画

散布作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（薬剤の準備・散布作業・散布順路・後片付けなど）、緊急時の対応などを決めた作業計画を立ててください。

(7) 薬剤の準備

薬剤を薬剤タンクに入れるときは、給水した後に行ってください。

 警 告	
	■ 薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。 誤って飲み込むと薬害に至るおそれがあります。
	下記の項目を必ず守ってください。 薬剤を誤って使用すると、薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤のラベルをよく読み、必ず記載されている内容を確認してください。 ■ 薬剤の知識を十分に持った人が薬剤を取り扱ってください。 ■ 人や動物がいる空間には散布しないでください。
	■ 薬剤は余らないよう、散布計画を立ててから作成してください。 余った薬剤をみだりに廃棄すると、法令違反に至るおそれがあります。 ■ 薬剤を取り扱う際は、保護具（保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋など）を使用し、十分に注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。また、かぶれなどを引き起こすおそれがあります。 ■ 薬剤の使用中に体に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。 薬剤が漏れ出すと薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は、幼児の手の届かないカギのかかる専用の場所に保管してください。 幼児が触ると、薬害に至るおそれがあります。

 注 意	
	■ 使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。 濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。 ■ 薬剤、水はゴミが混ざらないように、必ずストレーナを通して薬剤タンクに入れてください。 異物が入ると故障に至るおそれがあります。

お願い

- 農薬取締法に基づく「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」により、農薬使用者は下記を遵守する義務があります。
 - 1) 農作物や人畜などに害を及ぼさないようにする。
 - 2) 周辺水域への汚染のないようにする。
 - 3) 農薬ラベル記載事項（適用作物、希釈倍率、使用回数、収穫前日数）を遵守する。
 - 4) 住宅地などでの農薬の飛散を防止する。
 - 5) 使用した農薬の情報（年月日、場所、農作物、農薬の種類、単位面積当たりの使用量または希釈倍率）を記録する。

※ 詳細については農林水産省ホームページの「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」を参照してください。

お願い

- 有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ずご使用される場合は、使用後すぐに必ず清水で十分に洗浄してください。パッキン、ホース類が損傷します。
- 展着剤を使用する場合は、展着剤のラベルに記載されている内容に従って使用してください。
- フロアブル剤の中には、原液で使用すると、パッキン・シール部を痛め、液漏れにつながる場合があります。ご注意ください。

- ① 薬剤調合用に、バケツなどの容器を準備してください。
- ② 防水性の保護手袋と保護メガネ、保護マスクを装着してください。
- ③ 水コシ網が外れている場合は、取り付けてください。
- ④ 容器で必要なだけ薬剤を調合してください。
 - ※ 薬剤は余らないように作ってください。水和剤を使用する際は、少量の水でよく溶いてください。
- ⑤ 噴霧コックを「停止」、送液バルブを「噴霧」の位置にしてください。
- ⑥ 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にしてスロットルレバーを引き、エンジン回転速度を1500~2000rpmに調整してください。
 - ※ 薬剤タンク内がかくはんされます。

お知らせ

- 噴霧用ポンプとかくはん装置は連動しています。噴霧用ポンプを停止させると、薬剤はかくはんされません。
- ⑦ 薬剤を外部に漏らさないように薬剤タンクに入れ、十分にかくはんしてください。
 - ※ 展着剤を使用する際は、泡立ち防止のため十分にかくはんしてから入れてください。

7. 散布作業

(1) 散布作業

散布作業をするときは、下記の注意事項を守ってください。

⚠ 警 告	
	■ ノズルをのぞきこまないでください。 目や顔などに薬剤がかかり、薬害に至るおそれがあります。 ■ エンジン運転中はノズル部に近づかないでください。 ノズルから薬剤が噴出し、薬害に至るおそれがあります。 ■ 傾斜地での後進散布は絶対に行わないでください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ 薬剤を散布した直後の場所へ入らないでください。 散布後の薬剤の蒸気を吸い込み、薬害に至るおそれがあります。
	■ 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。 ■ 頭痛やめまいを感じたり、気分が悪くなったときは、すぐに作業を中止して医師の診察を受けてください。 薬害により事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業中の喫煙・飲食は控えてください。 タバコや手についた薬剤が口から入り、薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は薬剤タンクに残らないように散布してください。 残ったままで保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって、作物が薬害に至るおそれがあります。

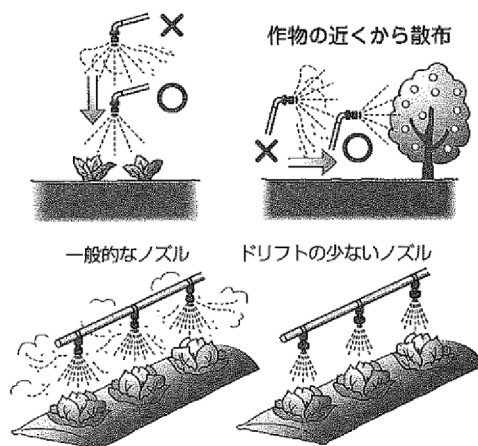
⚠ 注 意	
	■ 人や動物に噴霧しないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。 ■ 作業に関係のない人は、散布作業の現場に近づけないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。 ■ エンジン始動後は、噴霧に関するスイッチやコックなどをむやみに操作しないでください。 薬剤を撒いてしまい、作業や周りの作物が薬害に至るおそれがあります。 ■ 本製品をぶついたりしないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。 ■ 散布作業中に噴霧用ポンプスイッチを操作しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。
	■ 取扱説明書をよく読んで、本製品の操作に慣れて正しい作業を行ってください。 正しい作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。 ■ 使用する薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み正しい作業をしてください。 正しい作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。 ■ 散布作業は朝夕の涼しい時間帯に行ってください。 気温の高い時間帯は散布後の薬剤の蒸気を吸いこみ、薬害に至るおそれがあります。 ■ 風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。 薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。 ■ 風下から風上に向けて走行し、散布してください。 風上から散布すると農薬を浴びて、薬害に至る恐れがあります。

⚠ 注 意

下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。

誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。

- 風の弱い時に散布してください。
- 散布の位置や方向に注意してください。
- 適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。
- 適正な量を散布してください。
- 園地の端部での散布作業は特に注意してください。
- 散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。



- 薬剤タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、噴霧用ポンプを停止させてください。

噴霧用ポンプを 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。

- 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。
- 整備不良のまま作業を続けると薬害やけが、本製品の損傷に至るおそれがあります。

お知らせ

- 本製品が使用できる自然風速の限界は、3m/ 秒程度です。
- 断続的に散布する場合は、噴霧メインコック操作のみで作業ができます。

お願い

- 作業中は異常音、液漏れなどに注意し、もし異常があった場合は運転を中止し、対処してください。
- 取り除けない障害物などで走行が困難な場所では、手散布で補ってください。
- 風のある日は風向きとその変化に注意し、走行順路や走行速度を適宜調整し、薬剤の付着性や到達性の低下を防ぐようにしてください。

- ① エンジンを始動し、散布を始めたい位置より手前の位置に本製品を移動させ、停車してください。
- ② クラッチペダルを踏み込み副変速レバーを「低速」に入れ、主変速レバーを「N」にした後、ゆっくりクラッチペダルを離してください。
- ③ 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にし、調圧弁で任意の圧力に調整した後、送風機クラッチレバーを「入」にしてください。
※ 標準圧力は 1.5MPa です。
- ④ スロットルレバーを引き、任意のエンジン回転速度に調整してください。
※ 散布速度は、1~3km/h 程度が適当です。
- ⑤ 噴霧メインコックを「停止」にして、各噴霧コックを「噴霧」にしてください。
- ⑥ クラッチペダルを再度踏み込んで、主変速レバーを任意の位置にした後、ゆっくりペダルを離して走行を開始してください。
※ 各変速レバーが入りにくい場合は、エンジン回転速度を下げてクラッチペダルを踏み直してください。
- ⑦ 散布を始めたい位置で、噴霧メインコックを「噴霧」にしてください。
※ 樹形や木の配置を考慮し、各噴霧コックを開閉させ散布が不要の箇所へは、散布しないようにしてください。

(2) 散布作業後

⚠ 警 告



- 清掃作業は必ず噴霧用ポンプを停止して、エンジンを停止してから行ってください。噴霧用ポンプが動いていると薬剤が出て、薬害に至るおそれがあります。
- 損傷個所がある場合は、修理してから保管してください。損傷個所があると、事故に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- 電装品、エンジン、噴霧用ポンプに水をかけないでください。水をかけると故障に至るおそれがあります。汚れたら布などで拭き取ってください。



- 作業が終わったら、全身をよく洗ってください。目をきれいな水で洗い、うがいをしてください。身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。
- 作業後は使用した保護具を十分に清掃してください。保護具に薬剤が付いていると、次の作業時に薬害に至るおそれがあります。
- 作業に使用した作業衣は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。



- 散布作業終了後は、ポンプの内部をきれいな水で必ず洗浄してください。噴霧用ポンプ内部に薬剤が残っていると、故障に至るおそれがあります。
- 付着した薬剤はきれいに取り去ってください。薬剤が付着していると、サビの発生や故障に至るおそれがあります。
- 本製品の内部に付着した薬剤は洗い流してください。薬剤が残った状態や付着した状態で保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって薬害に至るおそれがあります。また、本体やポンプ、ホース類、ノズルなどが損傷に至るおそれもあります。
- 冬季の場合は、必ずポンプや配管類、ノズル内の水抜きを行ってください。水抜きを行わずに保管すると、凍結により配管部品の破損に至るおそれがあります。

お願い

- 作業後は、散布装置や薬剤タンクなどをしっかりと洗浄してください。
- 作業後に水コシ網と吸水ストレーナの清掃を行ってください。詰まりがあると噴霧性能に影響を与えます。

1) 本製品と薬剤タンクの洗浄

- ① スロットルレバーを戻してエンジンの回転速度を下げ、噴霧用ポンプスイッチを「OFF」にしてください。
- ② 噴霧メインコック・噴霧コックを「停止」にし、エンジンを停止して、キーを抜いてください。
- ③ 送液バルブを「排水」の位置にして、吸水ストレーナの下に容器を置いた後、吸水ストレーナのキャップを外して排水してください。

お願い

- 薬剤タンク内に薬剤が残った場合は、残液を受ける容器を送液バルブの下に置き、送液バルブを「排水」の位置にして取り除いてください。

- ④ 水コシ網と吸水ストレーナを取り外して洗浄し、取り付け直してください。
- ⑤ 送液バルブを「噴霧」の位置にしてください。
- ⑥ 薬剤タンク内に 100L 以上の清水を入れ、薬剤タンク蓋を閉じてください。

お願い

- 薬剤タンク蓋を開けたまま噴霧用ポンプを駆動させないでください。跳ねたかくはん液が飛び散るおそれがあります。

- ⑦ キーを挿してエンジンを始動し、噴霧用ポンプスイッチを「ON」にし、噴霧メインコック・噴霧コックを「噴霧」にして、ノズルから霧を出してください。
 - ⑧ 薬剤タンクの中身が無くなるまで散布し、エンジンを停止してください。
 - ⑨ 水コシ網と吸水ストレーナを再度取り外して洗浄し、取り付け直してください。
 - ⑩ 本製品を清水で洗浄し、送風機の吸い込み口にゴミが付いている場合は取り除いてください。
 - ⑪ 本製品を保管場所に入れ、キーを抜いてください。
- ※ 必要に応じてシートをかけてください。

2) 洗浄後

- ① 薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管してください。また、農薬使用日誌をつけてください。
- ② 保護具や使用した容器を洗浄してください。
- ③ 衣類を脱ぎ、全身を洗ってください。

⚠ 注 意

	■ エンジンルーム内の点検は、始業点検で行ってください。 作業後のマフラーやマフラーカバー、エンジン本体は高温になっているため、接触により火傷に至るおそれがあります。
	■ 前に使用した薬剤が残らないように、きれいに洗浄してください。 前に使用した薬剤と異なる薬剤を使用した場合に、作物が薬害に至るおそれがあります。

8. 保守点検（点検整備方式）

本製品を安全に使用するために、必要な定期点検は下記に基づいて行ってください。

「点検整備方式」は「始業点検」と「定期点検（使用時間ごと）」とに分かれていますが、まとめた様式で記載しています。ご自身で点検できない・点検しても判断できないものは、ご購入の販売店に点検を依頼してください。

⚠ 警 告	
	■ エンジンを運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。
	■ 点検を行う場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、キーを抜いてバッテリーからマイナスコードを外してから行ってください。 点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

お願い

- オイルやクーラントを交換する場合は、中身を受ける容器を置いて、こぼれないようにしてください。

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回 50 時間	時間ごと	
かし取り装置	ハンドル	遊び・ゆるみ・がた		○	100	64 ページの「(16) ハンドルの点検」を参照
		操作具合		○	100	左右にハンドルをきる
	ロッドおよびアーム類	取り付けのゆるみ・がた・損傷			100	目視および手で触れて確認
		ホイールアライメント			100	63 ページの「(2) ホイールアライメントの点検」を参照
					100	左右にハンドルをきる
制動装置	ブレーキペダル	遊び	○			6163 ページの「(1) ブレーキペダルの点検」を参照
		踏みしろ	○			ペダルを軽く踏み込む
		ブレーキの効き具合	○			低速で走り作動させる
	駐車ブレーキレバー	引きしろの余裕	○			64 ページの「(17) 駐車ブレーキの点検」を参照
		ブレーキのきき具合	○			
		ラチェット部の摩耗・損傷	○			目視にて確認
	ロッドおよびケーブル類	ゆるみ・がた・損傷	○		100	目視および手で触れて確認
		引きしろの余裕		○	200	64 ページの「(17) 駐車ブレーキの点検」を参照

判定基準	整備の方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
エンジン始動時ハンドル外周で遊び 30~40mmの間、上下方向がた 3mm 以下か	ご購入の販売店に依頼する										
ハンドル回転時引っかかりがないか	ご購入の販売店に依頼する										
ボルトのゆるみがなく、固定は確実か	ご購入の販売店に依頼する										
トーイン 4~6mm の間か	ご購入の販売店に依頼する										
左右の回転数差 0.5 回転以内か	ご購入の販売店に依頼する										
5~10mm の間か	ご購入の販売店に依頼する										
ペダル先端のストローク 70mm 以下か	ご購入の販売店に依頼する										
低速で走り停止できるか	ご購入の販売店に依頼する										
通常に引き 6~8 ノッチの間か	ご購入の販売店に依頼する										
低速で走り停止できるか	ご購入の販売店に依頼する										
引いた状態で固定できるか	ご購入の販売店に依頼する										
ゆるみ、がたおよび損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
通常に引き 6~8 ノッチの間か	ご購入の販売店に依頼する										

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回50時間	時間ごと	
走行装置	タイヤ	空気圧	○			62 ページの「(14) タイヤの点検」を参照
		亀裂・損傷	○			目視にて確認
		ラグの高さ・異常な摩耗	○			62 ページの「(14) タイヤの点検」を参照
		異物の付着	○			目視にて確認
	ホイール	タイヤの状態	○			目視にて確認
		クリップボルトおよびホイールボルトのゆるみ		○	100	目視および手で触れて確認
		リム・ホイールディスクなどの損傷	○			目視にて確認
		フロント・ホイールベアリングのがた			200	ご購入の販売店に依頼
		リヤ・ホイールベアリングのがた			200	ご購入の販売店に依頼
	クラッチ	ペダルの遊び・踏みしろ	○			63 ページの「(2) クラッチペダルの点検」を参照
		作用		○	200	63 ページの「(2) クラッチペダルの点検」を参照
		ロッド・ケーブル類のゆるみ・がた・損傷	○			目視および手で触れて確認
動力伝達装置	トランスミッション	油漏れ		○	200	目視にて確認
	変速レバー	操作機構のゆるみ・がた・損傷		○	100	目視および手で触れて確認
	プロペラシャフト	連結部のゆるみ		○	200	目視および手で触れて確認
		スプライン部のがた		○	200	目視および手で触れて確認
		軸受部のがた		○	200	目視および手で触れて確認
		プロペラシャフトの振れ		○	200	高速で走る
	フロントデフ リヤデフ	油漏れ		○		目視にて確認
		油量			200	58 ページの「(8) デフオイルの交換」を参照
	V ベルト	ベルトのゆるみ		○	200	59 ページの「(10) V ベルトの点検」を参照
		損傷	○			目視にて確認
原動機	始動装置	かかり具合	○			エンジンを始動する
	充電装置	充電作用	○			目視にて確認
	バッテリー	液量	○			61 ページの「(13) バッテリーの点検」を参照
		ターミナル部の接続状態	○			61 ページの「(13) バッテリーの点検」を参照
	電気配線	損傷、接続部のゆるみ			200	目視にて確認
	本体	かかり具合・異常音	○			エンジンを始動する
		低速・加速の状態	○			アイドルリング保持・加減速させる
		排気の状態	○			加減速させる
		エアクリーナエレメントの状態	○		100	目視にて確認
	潤滑装置	油漏れ		○	200	目視にて確認
		オイルの汚れ・量	○			55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照
	燃料装置	燃料漏れ		○	100	目視にて確認
		燃料フィルタの詰まり		○	100	57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照

判定基準	整備の方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基準値 ± 10kPa 以内か	62 ページの「(14) タイヤの点検」を参照										
亀裂および損傷がないか	62 ページの「(14) タイヤの点検」を参照										
タイヤ中央ラグ高さ 5mm 以上あるか	62 ページの「(14) タイヤの点検」を参照										
異物が付着していないか	除去する										
タイヤとホイールがずれていないか	ご購入の販売店に依頼する										
増し締めできるか	ご購入の販売店に依頼する										
変形がないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
遊びペダル先端 15~25mm 始動安全装置が作動するか	ご購入の販売店に依頼する										
クラッチが切れているか	ご購入の販売店に依頼する										
ゆりみ・がたおよび損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
油が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
スムーズに操作できるか	ご購入の販売店に依頼する										
ゆりみがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
走行時に異常振動、異音がないか	ご購入の販売店に依頼する										
油が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
検油口までオイルがあるか	ご購入の販売店に依頼する										
たわみ量が多くないか	ご購入の販売店に依頼する										
傷、異常摩耗がないか	ご購入の販売店に依頼する										
始動時異常音がないか	ご購入の販売店に依頼する										
エンジン始動時充電ランプが消えるか	ご購入の販売店に依頼する										
規定線以内か	61 ページの「(13) バッテリーの点検」を参照										
手でゆるまないか	61 ページの「(13) バッテリーの点検」を参照										
皮膜がはがれていないか	ご購入の販売店に依頼する										
正常にエンジンが始動するか	ご購入の販売店に依頼する										
異常音がしないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常と感じる黒煙がでていないか	ご購入の販売店に依頼する										
ゴミの付着が少ないか	54 ページの「(2) エアクリーナエレメントの点検」を参照										
油漏れしていないか	ご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか、黒くないか	55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照										
燃料配管系統に漏れがないか	ご購入の販売店に依頼する										
フィルタカップ内にゴミがないか	57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照										

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回 50 時間	時間ごと	
原動機	冷却装置	水漏れ	○			目視にて確認
		水量	○			54 ページの「(1) 冷却システムの点検」を参照
		ファンベルトのゆるみ・損傷	○			56 ページの「(5) ファンベルトの点検」を参照
	マフラー	取り付けのゆるみ・損傷	○			目視にて確認
計器類	灯火装置	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認
	方向指示器	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認
	警音器 (ホーン)	作用	○			音の確認
	反射装置 (後部反射鏡)	汚れ・損傷	○			目視にて確認
	計器	作用		○		目視にて確認
その他	エキゾーストパイプ	取り付けのゆるみ・損傷		○	200	目視にて確認
		マフラーの機能		○	200	目視および異常音がないか確認
	車枠および車体	ゆるみ・損傷		○	200	目視および手で触れて確認
	その他	前日の作業における異常箇所	○			—
		シャーシ部の給油状態			100	60 ページの「(11) グリスアップ」を参照
散布装置	吸水ストレーナ	ゴミ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認
	薬剤タンク水コシ網	ゴミ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認
	ノズル	ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷	○			目視にて確認
	送風機	異物の付着、損傷	○			目視にて確認
	噴霧用ポンプ	オイルの汚れ・量		○	100	目視にて確認
		シリンダパイプ内部の損傷			200	締切圧 2.5MPa で運転する

■ 定期交換部品

項目	交換時期					
	初回 50 時間	100 時間ごと	200 時間ごと	600 時間ごと	1 年ごと	2 年ごと
エンジンオイル	○	○				
エンジンオイルフィルタ	○		○			
メインミッションオイル	○			○		
サブミッションオイル	○			○		
フロントデフオイル				○		
噴霧用ポンプオイル	○	○				
燃料ホース						○
エアクリーナエレメント					○	
燃料フィルタ			○			
ラジエータホース			○			
ラジエータ液						○

判定基準	整備の方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
冷却水が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
適正な量になっているか	54 ページの「(1) 冷却系統の点検」を参照										
100N で押した時のたわみ 7mm 以下	ご購入の販売店に依頼する										
ガス漏れなどがないか	ご購入の販売店に依頼する										
点灯するか、汚れ、損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
点灯するか、汚れ、損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
音がでるか	ご購入の販売店に依頼する										
汚れ、損傷はないか	ご購入の販売店に依頼する										
作動するか、ランプが点灯するか	ご購入の販売店に依頼する										
排気ガスが漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
黒煙は少ないか、異常音はないか	ご購入の販売店に依頼する										
外観上異常と感じる部分がないか	ご購入の販売店に依頼する										
修理が終わっているか	ご購入の販売店に依頼する										
適量給油されているか	ご購入の販売店に依頼する										
ゴミ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
ゴミ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷	清掃・交換										
異物の付着、損傷	清掃またはご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか、黒くないか	61 ページの「(12) 噴霧用ポンプの点検」を参照										
圧力が上がるか、異常音がしないか	ご購入の販売店に依頼する										

交換方法
55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照
55 ページの「(4) オイルフィルタカートリッジの交換」を参照
58 ページの「(9) ミッションオイルの交換」を参照
58 ページの「(9) ミッションオイルの交換」を参照
58 ページの「(8) デフオイルの交換」を参照
61 ページの「(12) 噴霧用ポンプの点検」を参照
ご購入の販売店に依頼する
54 ページの「(2) エアクリーナエレメントの点検」を参照
57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照
ご購入の販売店に依頼する
54 ページの「(1) 冷却系統の点検」を参照

9. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に 1 回、ご購入の販売店にて点検を行ってください。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
- エンジンを運転して行う点検整備は、必ずご購入の販売店に依頼してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
- 整備に必要な工具などはお客様が準備をお願いします。

警告

	■ エンジンを運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。
	■ 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 冷える前に行うと、火傷に至るおそれがあります。
	■ 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。 正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。 ■ 点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。 正しく取り付いていないと、事故に至るおそれがあります。

■ 定期点検

46 ページの「8. 保守点検 (点検整備方式)」を目安に、定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

■ 給油一覧表

給油項目		使用油脂類	容量 (L)	初期交換時間	定期交換および注油
燃料		軽油	20	—	—
エンジンオイル		SAE10W-30 API CD 級以上	3.1 3.7(※ 1)	50 時間	100 時間
メインミッションオイル		JX 日鉱日石 ファームユニバーサル	2.0		600 時間
サブミッションオイル			0.5		
フロントデフオイル		ギヤオイル SAE90	1.0		
噴霧用ポンプ クランクケース		SAE 10W-30 API SH 級以上	0.6	—	100 時間または 1 年ごと (※ 2)
噴霧用ポンプ シリンダ元部			3~5 滴		
各ワイヤ部		ギヤオイル SAE90	3~5 滴	50 時間	600 時間
グ リ ス 注 油	ブレーキ・クラッチペダル軸	シャーシグリス	適量	—	20 時間
	副変速・送風機レバー軸				
	プロペラシャフト				
ラジエータ		LLC	4.2	—	2 年ごと

※ 1 オイルフィルタ交換時

※ 2 どちらかで注油してください。

■ 消耗部品リスト

お願い

- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
- Vベルトは、規格外のサイズや種類を使用すると、早期に磨耗や破断に至る場合があります。

使用部位	名称		部品番号	規格
エンジン	オイルフィルタカートリッジ		642984	クボタ 1J094-32431
	エアクリーナエレメント		647156	クボタ 1G659-1122-0
	Vベルト		577467	FM33
燃料配管	フィルタアッシ		199997	クボタ 17480-4301-2
	フィルタエレメント		404764	クボタ 16271-4356-0
電装品	ヒューズ ボックス	ヒューズ	882541	25A
		ヒューズ	185012	15A
		ヒューズ	641262	10A
		ヒューズ	191738	5A
	スローブローヒューズ		695275	40A
	ヒュージブルリンク		150649	
	計器パネル (電球)	グローランプ	595551	メータ用ウエッジ球 12V3.4W T10
		ターンシグナルパイ ロットランプ		
		ブレーキ警告灯		
		警告灯 (OK モニタ)		
		ブレーキ連結解除ラ ンプ	866675	LED
	灯火器 (電球)	ヘッドライトバルブ	600197	12V 45/45W RP35 P30d-10.3
		ウインカ前 バルブ	—	ウインカ用口 金球 12V21WS25BA 15S
		ウインカ後 バルブ		ウインカ用口 金球 12V15WS18BA 15S
		ウインカ横 バルブ	407569	T15 12V18W
噴霧用ポンプ	シリンダパイプ内	吸水弁	014122	
		ピストンパッキンマトメ	116121	
		吸水弁カラー	027499	
		吸水弁ストッパ	119917	
		ナイロンナット	046365	M6
	シリンダ元金具	シールパッキン	100015	
	シリンダパイプ	シリンダパイプ	125342	
		O リング	026142	S29
	シリンダ先金具	弁組立	120276	
	Vベルト		164869	LA31 オレンジ
走行用	Vベルト		699083	LB44 スーパー AG-X
薬剤タンク蓋	パッキン		187739	
吸水ストレーナ	アミ		698877	ARAG 3122002.030
	O リング		866041	ARAG 454237.090
ノズル	パッキン		100691	13.5X18XT2
	ノズルイタ		143608	Φ 1.4
走行クラッチ	クラッチユニット		198890	
ブレーキ	ブレーキシュー (前)		867177	
	ブレーキシュー (後)		867164	

■ 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

(1) 冷却システムの点検

⚠ 注 意



■ エンジン運転中や停止直後は、ラジエータキャップの取り外しを絶対に行わないでください。
高温状態のラジエータに触れると、火傷に至るおそれがあります。



■ ラジエータキャップを取り外すときは、エンジンが冷えてから布などを被せて取り外してください。
熱湯が噴き出し、火傷に至るおそれがあります。

ラジエータキャップを取り外し、冷却水が入口いっぱいまで入っているか確認してください。

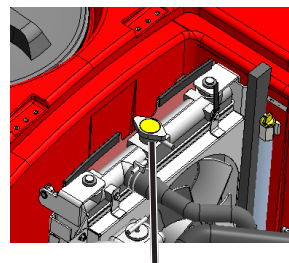
■ ロングライフクーラントについて

製品出荷時、ロングライフクーラントが入っており、-20℃まで凍結しないようになっています。外気温に合わせて濃度を調節してください。

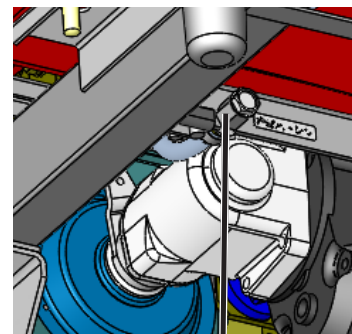
外気温	濃度
-10℃以上	30%
-10~-25℃	40%

■ 冷却水が不足している場合

- ① ロングライフクーラントを準備し、補充してください。
- ② 補充後、キャップを確実に締め付けてください。



ラジエータキャップ



冷却水ドレン

お知らせ

■ 製品出荷時、ロングライフクーラントが入っています。

■ 冷却水の交換

- ① 冷却水ドレンを開け、冷却水を排水してください。
- ② 内部から錆が出なくなるまで、水道水で洗浄してください。
※ ラジエータ内部の清掃は、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れて、15 分間以上エンジンを運転してから交換すると効果的です。
- ③ 冷却水を入れてください。
※ 必ず新しいロングライフクーラントを入れてください。
- ④ キャップを確実に締め付けてください。

(2) エアクリーナエレメントの点検

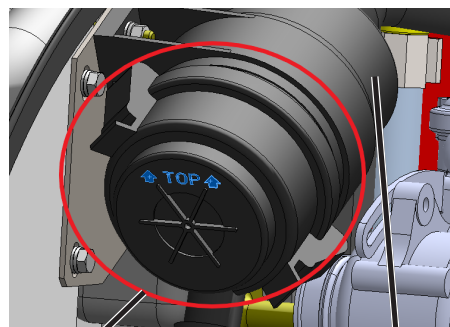
お願い

- エアクリーナエレメントは、必ず運転前に取り出して清掃してください。フィルタが詰まるとエンジン性能に影響を与えます。
- 清掃はエレメントの内側からエアーを吹きつける (0.5MPa 以下)、または軽く振ってゴミを取り除いてください。

■ エアクリーナエレメントの交換

エアクリーナエレメントは 1 年に 1 度交換してください。

- ① カップを取り外してください。
- ② エアクリーナエレメントを取り外し、新しいものと交換してください。
- ③ カップの「TOP」部分が、上側になるように取り付けてください。



カップ

エアクリーナ

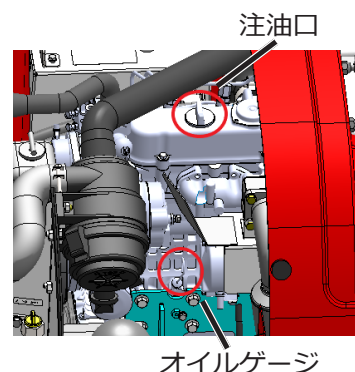
(3) エンジンオイルの点検

エンジンオイルの点検はエンジン始動前、または停止後 5 分以上経過してから、平坦な場所で行ってください。

■ エンジンオイルの確認

- ① オイルゲージを抜き、きれいな布で拭いてください。
- ② オイルゲージを元に戻し、再び抜いてオイルが不足していないか確認してください。

※ オイルゲージ上の L と H の間にあるのが適量です。不足している場合は、注油口からエンジンオイルを補給してください(エンジンオイルについては、52 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください)。



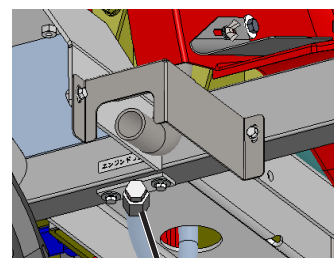
■ エンジンオイルの交換

初回 50 時間、以後 100 時間ごと、または汚れや変色の著しい場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。

- ① エンジンオイルを受ける容器を準備し、エンジンオイルドレンの下に置いてください。
- ② エンジンオイルドレンを開け、エンジンオイルを完全に抜き取ってください。

※ 抜き取り時は注油口を開けてください。

- ③ 完全に抜き取れたらエンジンオイルドレンを閉め、注油口より新しいエンジンオイルを給油してください。



エンジンオイルドレン

「オイルの種類」 SAE10W-30 API CD 級以上

「オイル量」 3.1L

「交換時期」 初回交換 50 時間

定期交換 100 時間毎

(4) オイルフィルタカートリッジの交換

お願い

- 200 時間ごと (初回は 50 時間) に、新しいオイルフィルタに交換してください。
- フィルタレンチは、市販のバンド式のものを使用してください。

- ① 55 ページの「■ エンジンオイルの交換」の要領で、エンジンオイルを抜き取ってください。
- ② オイルフィルタはカートリッジ式であるため、フィルタレンチを準備してください。
- ③ フィルタレンチでオイルフィルタカートリッジを取り外し、新しい物と交換してください。
- ④ エンジンオイルを給油し、エンジンを始動させ、アイドリング状態で 5 分程度運転してください。
- ⑤ 油漏れがないか点検してください。
- ⑥ エンジンを停止し、10~20 分経過した後に 55 ページの「■ エンジンオイルの確認」の要領でオイルレベルを点検してください。

※ 不足している場合は補給してください。また、入れすぎた場合はエンジンオイルドレンよりオイルを抜いてください。



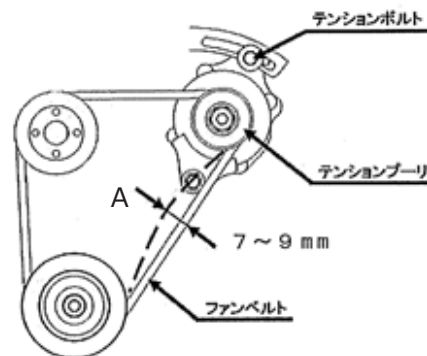
オイルフィルタカートリッジ

(5) ファンベルトの点検

ベルト中間部「A」の部分で、約 100N の力で押した時のたわみ量（正常は 7~9mm）を点検してください。また、亀裂や剥がれがないかも点検してください。

お願い

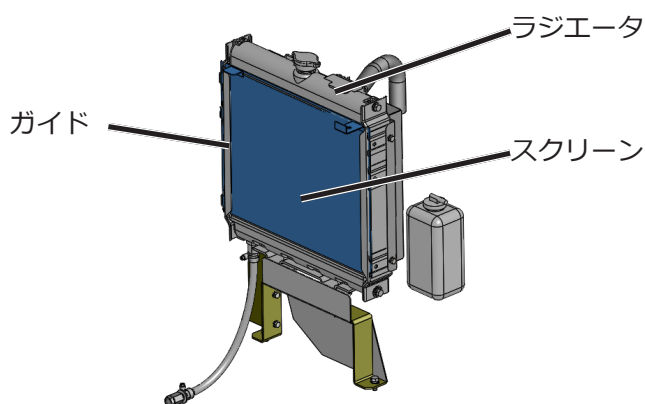
- ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足に至るおそれがあります。ゆるみや亀裂、剥がれなどがあった場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。



(6) スクリーンの清掃

エンジン始動前にスクリーンを引き出して、表面にゴミが付着していないか確認してください。

- ① スクリーンを上に引き上げ、本製品の左側から引き出してください。
- ② スクリーンにゴミが付着している場合は、取り除いてください。
- ③ スクリーンをラジエータの左右にあるガイドに、差し込みながら取り付けてください。



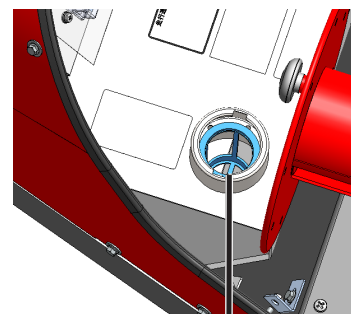
(7) 燃料系統の点検

■ 燃料タンクの清掃

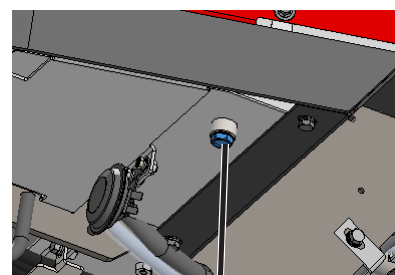
お願い

- 100 時間ごとに、燃料タンク内の水やゴミを抜き取ってください。

- ① 燃料キャップを外し、給油口ストレーナに付着したゴミを取り除いてください。
- ② 燃料タンク下部のドレンプラグを外し、燃料タンク内の燃料・水やゴミを抜き取ってください。
- ③ ドレンプラグを元に戻し、燃料を給油して燃料キャップを確実に締めてください（給油については、19 ページの「(2) 給油」を参照してください）。



給油口ストレーナ



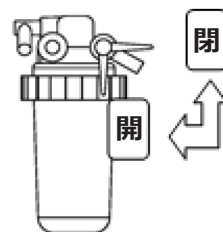
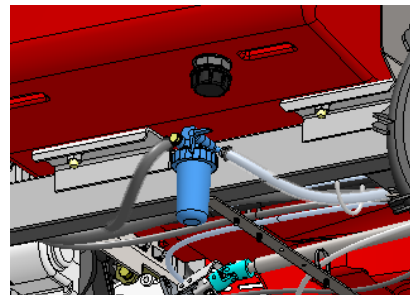
ドレンプラグ

■ 燃料フィルタの交換

お願い

■ 200 時間ごとに、燃料フィルタの交換をしてください。

- ① 燃料キャップを外し、燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
- ② 燃料フィルタをホースから取り外し、新品の物と交換してください。
- ③ ゴミやほこりなどが付着しないように、正しく組み付けてください。
- ④ 燃料を給油して燃料キャップを確実に締めてください(給油については、**19 ページ**の「**(2) 給油**」を参照してください)。



(8) デフオイルの交換

お願い

- 600 時間ごとに、新しいオイルと交換してください。

- ① デフオイルを受ける容器を準備し、デフのドレンプラグの下に置いてください。
- ② 注油口とデフのドレンプラグを取り外し、デフオイルを抜き取ってください。
- ③ ドレンプラグを元に戻し、注油口より新しいデフオイルを給油してください。

「オイルの種類」 ギヤオイル SAE90

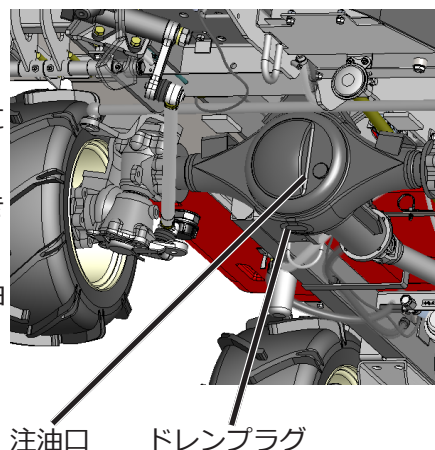
「オイル量」 1.0L

「交換時期」 初回交換 50 時間
定期交換 600 時間毎

- ④ デフオイル給油後、注油口のねじ穴下面に油面があることを確認してください。

※ 不足している場合は、注油口からデフオイルがこぼれてくるまで給油してください。

【フロントデフ】



(9) ミッションオイルの交換

お願い

- 600 時間ごと (初回は 50 時間) に、新しいオイルに交換してください。

■ ミッションオイルの交換

- ① ミッションオイルを受ける容器を準備し、メイン・サブミッションドレンプラグの下に置いてください。
- ② メイン・サブミッションドレンプラグを取り外し、ミッションオイルを抜き取ってください。
※ 抜き取り時は注油口を開けてください。
- ③ メイン・サブミッションドレンプラグを元に戻し、メイン・サブミッション注油口より新しいミッションオイルを給油してください。

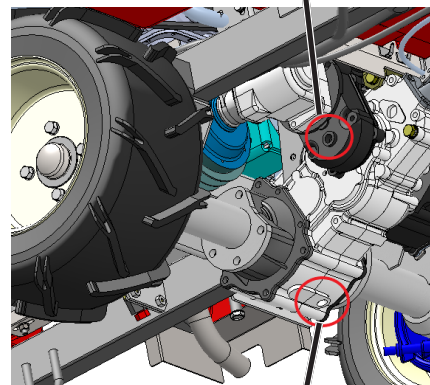
「オイルの種類」 JX 日鉱日石ファームユニバーサル

「オイル量」 メイン :2.0L サブ :0.5L

「交換時期」 初回交換 50 時間
定期交換 600 時間毎

※サブミッション給油時には、サブミッション検油口を開けてください

サブミッション
ドレンプラグ



メインミッション
ドレンプラグ

メインミッション サブミッション
注油口 注油口

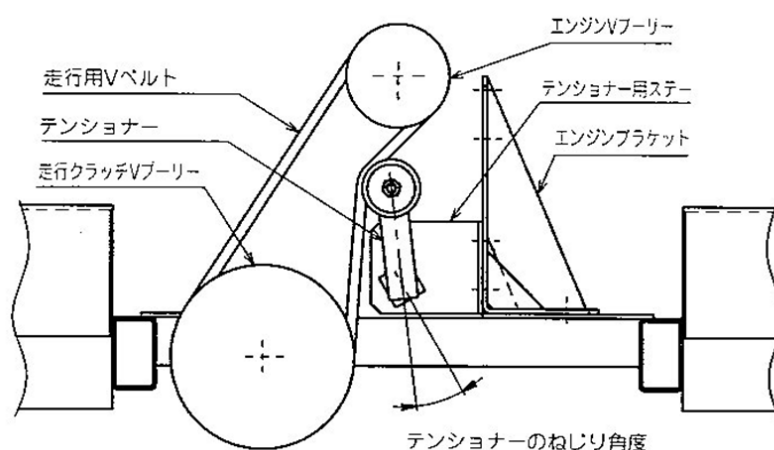


(10) V ベルトの点検

駆動部位	ベルトの種類	ベルト中央部を押す力 (N)	たわみ (mm)
エンジン⇒走行クラッチ	LB44 スーパー AG-X	テンショナー角度 11~15°	
エンジン⇒噴霧用ポンプ	LA31	14~16	4

■ 走行用 V ベルトの点検

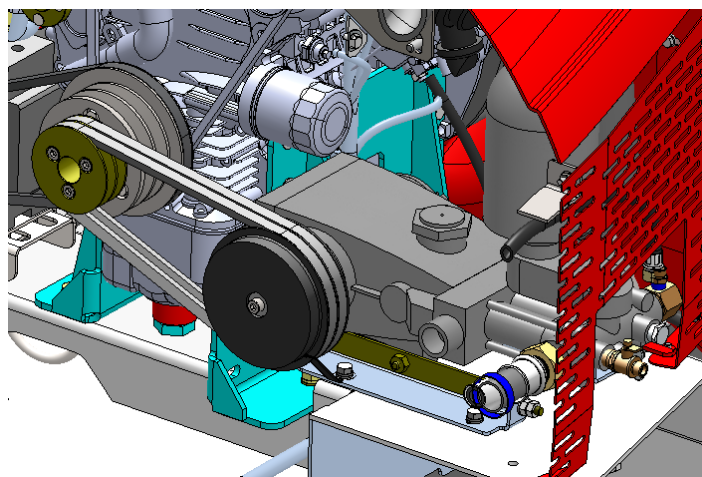
ベルトの張りは、テンショナーのねじり角度が 11~15° になっているか確認してください。



■ 噴霧用ポンプ V ベルトの調整

ベルト中間部を押してたわみ量が 4.0mm の時、荷重が 14~16N の範囲内になっていない場合、ベルトの張りを確認（または点検）してください。

※ この範囲になっていない場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。



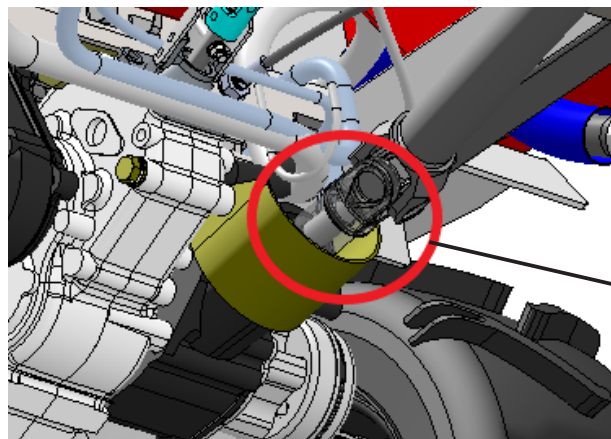
(11) グリスアップ

プロペラシャフト、ブレーキ・クラッチペダル軸、副変速・送風機レバーにグリスアップしてください。

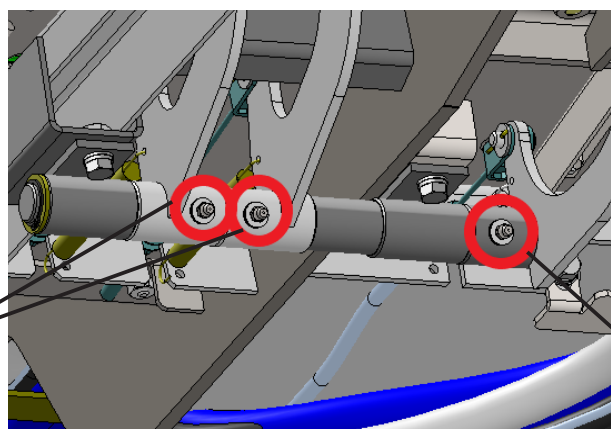
「オイルの種類」 シャーシグリース

「オイルの量」 適量

「交換時期」 定期注油 20 時間毎

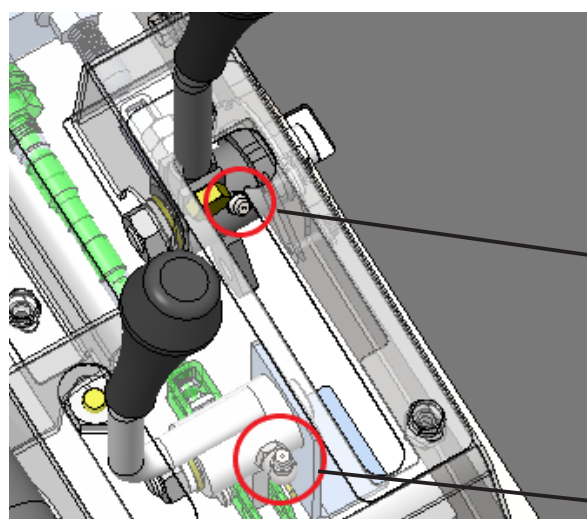


プロペラシャフト



ブレーキペダル右、左

クラッチペダル



送風機レバー軸

副変速レバー軸

(12) 噴霧用ポンプの点検

■ クランクケースのオイル交換

お願い

- 100 時間ごと(初回は 50 時間)に、クランクケースのオイルを交換してください。

- ① クランクケース内のオイルを受ける容器を準備し、ドレンプラグの下に置いてください。
- ② 給油口とドレンプラグを取り外し、オイルを抜き取ってください。
- ③ ドレンプラグを元に戻し、給油口より新しいオイルを給油してください(噴霧ポンプ用のオイルについては、52 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください)。
- ④ オイルの給油後、オイルゲージにて油量を確認してください。
※不足している場合は、給油口よりオイルを補給してください(オイルについては、50 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください)。また、入れすぎた場合はスポイト等使用して給油口から抜いてください。



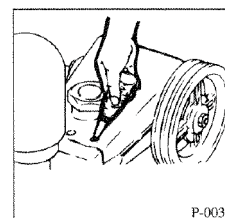
ドレンプラグ

■ シリンダ元の注油口への注油

お願い

- 100 時間ごとに、シリンダ元の注油口へ注油してください。
※ 100 時間に満たなくても、一年に一度は注油してください。

クランクケースのシリンダ元の給油口(3 つ穴)に、油差しでクランクケースと同じオイルを 3~5 滴注油してください。



P-003

(13) バッテリーの点検

⚠ 危険



- バッテリーの電解液が、バッテリーの側面に表示されている限界 (LOWER LEVEL) 以下の状態で使用または充電をしないでください。
バッテリーの破裂 (爆発) や火災に至ります。また、バッテリーの劣化を促進させます。
- バッテリー端子の点検時は、ショートさせないように注意してください。
バッテリーの破裂 (爆発) や火災に至ります。

⚠ 注意



- バッテリーコードを外す場合は、必ずマイナス側を先に外してください。
プラス側から外すとショートさせてしまい、火花の発生に至るおそれがあります。
- バッテリー液は腐食性が強いので、こぼさないように注意してください。手や衣類、金属部に付着した場合は、すぐに水でよく洗ってください。
そのまま放置すると火傷に至るおそれがあります。また、衣類の損傷や金属部の錆の発生に至るおそれもあります。

お知らせ

- バッテリー上部にキャップのないものは、メンテナンスフリーバッテリーです。
- バッテリー上部にキャップが付いているものが、メンテナンスが必要な従来型のバッテリーです。

1) バッテリーの取り付け・取り外し

■ バッテリーを取り外す場合

最初にバッテリーコード(マイナス側)を取り外し、次にバッテリーコード(プラス側)を取り外してください。

■ バッテリーを取り付ける場合

最初にバッテリーコード(プラス側)を取り付け次にバッテリーコード(マイナス側)を取り付けてください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。バッテリーを交換する場合には、指定した型式のバッテリー(70B24R)を使用してください。

2) バッテリーの点検

■ メンテナンスフリーバッテリー

① 充電インジケータを垂直に見てください。

② 充電インジケータの色が透明または緑色のときは、軽くたたいて中の気泡を除き、もう一度確認してください。

③ 下記表のインジケータの色により処置してください。

色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	不足	補充電が必要
透明	液が不足	始動できないときは交換

お知らせ

■ メンテナンスフリーバッテリーは、蒸留水を補充する必要がありません。

■ 従来型バッテリー

① バッテリー液の点検

バッテリー液が UPPER—LOWER の間にあるか点検してください。

■ LOWER 以下の場合

a) キャップを開け、蒸留水を UPPER まで補給してください。

b) 補給後はキャップを確実に締め付けてください。

② バッテリー端子部の点検

バッテリー端子部を点検し、ゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。また、白い粉が付いている場合は、温湯で清掃し、締め付けてからグリスを少量塗布してください。

(14) タイヤの点検

⚠ 注 意



■ ホイルナットがゆるんだ状態で、本製品を運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると、事故や故障に至るおそれがあります。

1) タイヤの点検

各車輪に摩耗、亀裂、空気圧に過不足などの異常がないか点検してください。

■ 摩耗、亀裂が大きい場合

新品タイヤと交換してください。タイヤ中央のラグ高さが 5mm 以下になりましたら交換が必要です。



■ 空気圧が過不足の場合

バルブより適正空気圧に調整してください。

※ 標準空気圧：前・後輪 240kPa

お願い

- タイヤの空気圧は、適正な空気圧に調整してください。タイヤの空気圧が高すぎると、タイヤが偏摩耗しやすくなります。空気圧が低すぎてもパンクを起こしやすくなり、燃費も悪くなります。



バルブ

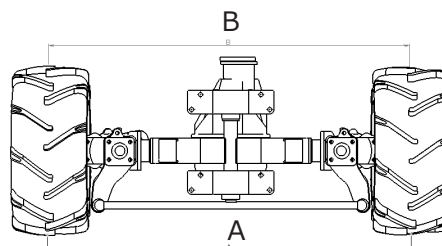
2) ホイールアライメントの点検

前輪の前幅 A と後幅 B を測り、

$$B - A = 4 \sim 6 \text{mm}$$

になっているか点検してください。

※ 範囲外の場合は、ご購入の販売店に調整を依頼してください。



⚠ 注意



- 範囲外の場合は調整してください。

ハンドルをとられたり、異常に振れたりして事故に至るおそれがあります。

(15) ブレーキ・クラッチペダルの点検

お願い

- ブレーキ、クラッチ、ハンドルは運転上重要な部品です。異常を感じた場合は、ご購入の販売店に整備を依頼してください。

1) ブレーキペダルの点検

ペダルの遊びは、ペダル踏板先端で 5~10mm です。

※ 範囲外の場合は、ご購入の販売店に調整を依頼してください。

ブレーキペダル : 5~10mm

クラッチペダル : 15~25mm

2) クラッチペダルの点検

- ① ペダルの遊びは、ペダル踏板先端で 15~25mm です。

※ 範囲外の場合は、ご購入の販売店に調整を依頼してください。

- ② 始動安全スイッチがペダルの下方にあります。スイッチ部が固着せず、スムーズに作動するか確認してください。



⚠ 注意



- 調整不良のまま本製品を運転しないでください。

タイヤがロックぎみで走行するとブレーキの摩耗を早め、ブレーキ内部の破損に至るおそれがあります。

(16) ハンドルの点検

- ① エンジンを始動し、エンジン回転速度を低速回転にしてください
- ② ハンドルを左右に軽く回し、タイヤが動くまでの範囲(遊び)をハンドルの円周方向の移動量で測定してください。
※ 100mm 程度が適正です。
- ③ ハンドルを回して途中で引っ掛かりがないかを確認してください。
※ 異常があった場合は、ご購入の販売店に連絡してください。

(17) 駐車ブレーキの点検

駐車ブレーキレバーは操作力 100N のとき、6~8 ノッチが標準です。ノッチが確実につめに掛かっているかを確認してください。

10. 長期保管

■ 本製品を長期間（3 カ月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**46 ページの「8. 保守点検（点検整備方式）」**を行ってから保管してください。なお、保守点検ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は、全て当社指定の純正部品を使用して、必ず修理してから保管してください。

⚠ 注 意

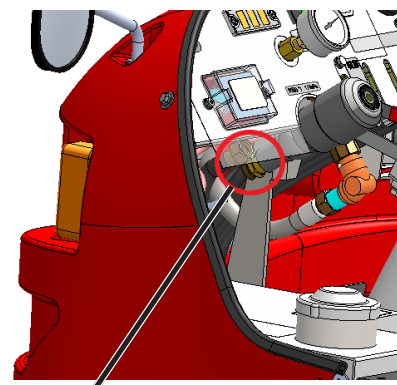


- **長期保管する場合は、必ずポンプや配管類、ノズル内の水抜きを行ってください。**
水抜きを行わずに保管すると、凍結によりポンプや配管部品の破損に至るおそれがあります。

お願い

- 整備に必要な工具などはお客様が準備をお願いします。

- ① スパナを準備してください。
- ② **43 ページの「(2) 散布作業後」**の要領で、清掃運転と水抜きを行ってください。
- ③ エンジン回転速度を 1500rpm 以下の状態で、噴霧用ポンプを空運転（運転は **30 秒以内**）させ、噴霧メインコック・噴霧コックを開閉して、ホース内の薬液を完全に排出してください。
- ④ 噴霧メインコック・噴霧コックは「噴霧」の位置にしてください。
- ⑤ 噴霧用ポンプを停止し、調圧弁部の配管を取り外して調圧弁とホース内の排水を行ってください。

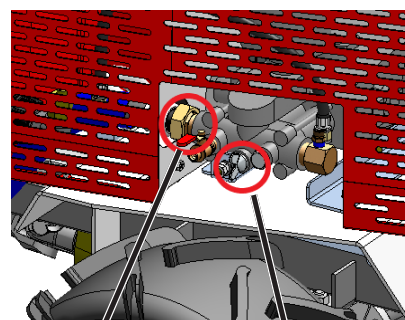


調圧弁部の配管

お願い

- 排水後は調圧弁部の配管を取り付けてください。

- ⑥ 噴霧用ポンプの水抜きドレンプラグを外し、噴霧用ポンプの空運転を 5~10 秒程度行って、中の水を排出してください。
- ⑦ 噴霧用ポンプの吸水ホースを外し、残った水を排出してください。

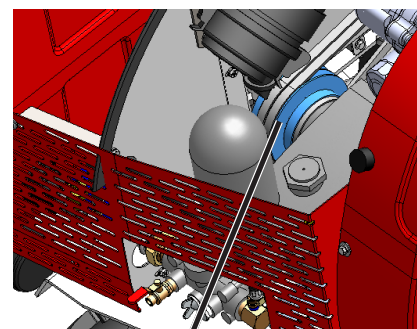


吸水ホース ドレンプラグ

お願い

- 噴霧用ポンプ用電磁クラッチに、水がかからないように注意してください。

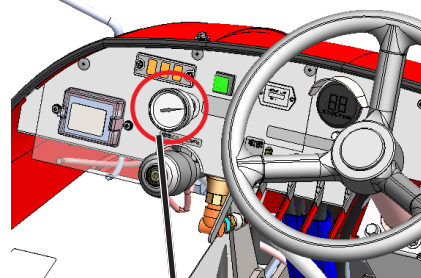
- ⑧ 送液バルブを「排水」にし、薬剤タンクと配管内に残った中身を排出してください。
- ⑨ スパナを使用して圧力計を取り外し、配管内の水を排出してください。



噴霧用ポンプ用電磁クラッチ

お願い

- 取り外した圧力計は、凍結のおそれがない場所で保管してください。
- 圧力計を取り外した後に本製品を使用する場合は、圧力計をスパナでしっかり締め付けてください。取り付け忘れると、水が噴き出します。



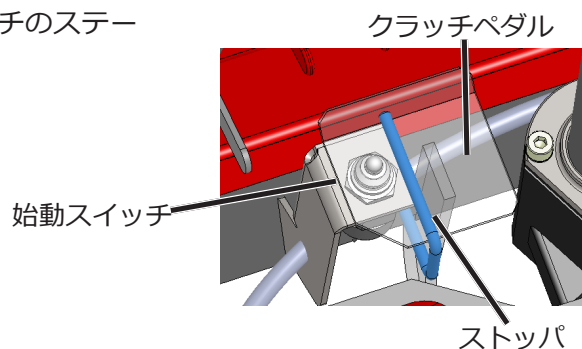
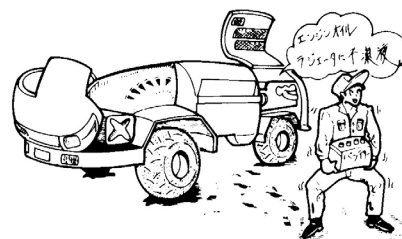
圧力計

- ⑩ 各部のボルトやナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば増し締めしてください。
- ⑪ スロットルレバーを、一番上に上げてください。
- ⑫ 副変速レバーを必ず「低速」にしてください。
- ⑬ 本製品の外部を清掃し、ワックスなどを塗布してください。
※ 塗装のはがれた部分は、サンドペーパーなどで錆を落とし、塗料を塗ってください。
- ⑭ 湿気のない場所を選んで、本製品を格納してください。
- ⑮ タイヤの空気圧を少し高めに調整し、直接地面と接しないように板などの上で保管してください。

お願い

- バッテリーは 1 カ月に一度充電してください。
- バッテリーを取り外した後に本製品を使用する場合は、バッテリーを取り付けてから使用してください。

- ⑯ バッテリーを本製品から取り外し、湿気のない冷暗所に保管してください。
- ⑰ 燃料タンクは燃料を満タンにします。
- ⑱ クラッチディスクの固着を防止するために、クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチペダルと始動スイッチのステーに付属品のストッパを引っ掛けてください。



⚠ 危険



- 本製品にシートを掛けるときは、本製品が冷えてから行ってください。
マフラーや排気口は高温になるため掛けたシートが発火し、火災に至ります。

⚠ 注意



- 本製品にシートを掛けるときは、本製品が乾いてから行ってください。
濡れた状態のままでは腐食が発生し、故障に至るおそれがあります。

- ⑲ エンジンが冷えたら、シートなどでカバーをかけてください。



11. 故障と対策

☆印については、ご購入の販売店に調整・修理を依頼してください。

(1) エンジン関係

故障内容	故障原因	対策
キースイッチを回してもスタータが回らない	クラッチペダルを踏み込んでいない。送風機レバーが「切」になっていない。	クラッチペダルを奥まで踏み込み、送風機レバーを「切」にしてから、キースイッチを「始動」にする。
	配線端子のゆるみ、外れ。バッテリー端子のゆるみ、外れ、腐食	締め直し、接続し直し。端子部の清掃、確実に締める。グリスを塗布し防錆する。
	ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、ご購入の販売店に相談する。 ☆
	バッテリーの電圧低下	バッテリー液の補充と充電、バッテリーを交換する。
	キースイッチの故障 セルモータの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
スタータは回るが、エンジンが始動しない	燃料がない 燃料に空気が混入している	燃料タンクに燃料を補給する。
	燃料が流れない	ご購入の販売店に連絡する。 ☆
	バッテリーが上がり気味で、エンジンを回す力がない	バッテリーを充電する。 充電されない時は、新品と交換する。
エンジンの回転速度が不安定	燃料噴射ノズルの詰まり	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	燃料フィルタの目詰まり	
	空気が混じってる	
	水が混入している	
エンジン出力不足	燃料不足	燃料系統の点検する。
	エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する。
	圧縮不足	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	燃料噴射状態の悪化	
	吸排気弁隙間不適切	
排気色が悪い	燃料が悪い	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ	正規のオイル量にする。
	燃料噴射状態の悪化	ご購入の販売店に相談する。 ☆
オーバーヒートした (水温警告灯が点灯)	冷却水量の不足および水漏れ	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	ファンベルトのゆるみ	
	ラジエータ前面の詰まり	ラジエータ前のスクリーンおよびフィンの清掃をする。
運転中に油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量の不足	オイルを規定量まで補給する。
	エンジンオイルの粘度が低い	適正粘度のオイルと交換する。
	プレッシャスイッチの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	オイルランプの故障	
グローランプが点灯しない	ヒューズの切れ	新しいヒューズと交換する。
運転中にチャージランプが点灯した	レギュレータの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	ファンベルトのゆるみ、破損	

(2) 動力伝達系関係

故障内容	故障原因	対策
クラッチが切れない	クラッチディスクの固着	ご購入の販売店に相談する。☆
クラッチが滑る	クラッチディスクの摩耗	
ブレーキの効きが悪い	ブレーキペダルの調整不良	ご購入の販売店に相談する。☆
ブレーキが過熱する	ブレーキ操作不良	ブレーキに足を乗せて運転しないようにする。
	ペダルの遊びがない	ご購入の販売店に相談する。☆

(3) 電装関係

故障内容	故障原因	対策
灯火器が点灯しない	電球切れ	新しい電球と交換する。
	ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、ご購入の販売店に相談する。☆
	配線端子のゆるみ、外れ	点検の上接続し直す、締め直す。
	スイッチの故障	ご購入の販売店に相談する。☆

(4) 散布装置関係

故障内容	故障原因	対策
噴霧量が少ない 圧力が上がらない	薬剤が薬剤タンクに入っていない	必要量、薬剤を入れる。
	送液バルブが「噴霧」位置になっていない	送液バルブを「噴霧」の位置にする。
	エンジン回転速度が低い	スロットルレバーを操作し、回転速度を上げる。
	調圧弁が調整されていない	調圧弁を操作し、所要の圧力に合わせる。 (常用圧力 1.5MPa)
	吸水ストレーナの目詰まり	清掃する。
	噴霧用ポンプベルトのスリップ	ご購入の販売店に相談する。☆
	噴霧用ポンプのピストンパッキン、吐出弁、吸水弁の摩耗	
	吸水ホース・噴霧ホース接続金具のパッキン損傷、ホースの損傷	
	ノズルの摩耗	新しいノズルと交換する。
	ノズルの目詰まり	清掃する。
	ノズルの噴霧量が多すぎる	ノズル板を適正水量に組み合わせる。

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

12. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

廃棄

本製品を廃棄するときは、下記のいずれかで行ってください。

- ① お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。
- ② ご購入の販売店にご相談ください。
- ③ 中古の農業機械取扱店に引き取りを依頼してください。
- ④ 産業廃棄物処理業者に収集を依頼してください。
 - ※ 製品のお引き取りに関しては有償となる場合もございます。
 - ※ 弊社より産業廃棄物処理業者などのご紹介は行っておりません。

お願い

- 燃料やオイル、バッテリー、クーラントを廃棄する場合は、お住いの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

13. 主要諸元

型	式		名		SSA-E502DX-1						
寸法	全	長(mm)		2910							
	全	幅(mm)		1230							
	全	高(mm)		1120							
	最低地上高		(mm)		120						
乾	燥		質		量(kg)		700				
エンジン	名	称		クボタ D722							
	形	式		水冷4サイクル3気筒 立形ディーゼルエンジン							
	総排気量	(L)		0.719							
	定格出力	(kW/min ⁻¹)		9.0/2300							
走行部	燃	料		ディーゼル軽油							
	型	式		自走式4輪駆動形							
	操		作		方		法	丸ハンドル			
	変		速		段		数	前進6段 後進2段			
	走行速度 (km/h)	モ	ー	ド	変速位置		低速	高速			
					1	1.4	4.5				
					2	2.1	7.1				
					3	3.9	12.7				
	走行速度 (km/h)	前	進	後	進	R	2.5	8.3			
						最高速度(km/h)			*① 14.7		
						機体最外側旋回半径(m)			*② 2.2		
						登坂能力(度)			15		
	主ブレーキ			乾式内部拡張機械式							
	駐車ブレーキ			機械式推進軸制動内部拡張式							
	変速装置			常時噛合式							
	タイヤ			19×8.00-10 4PR(空気圧 240kPa)							
	バッテリー			70B24R([36Ah/12V] 以上)							
	燃料タンク容量(L)			20							
	薬剤タンク容量(L)			500							
	かくはん方式			噴流式							
噴霧用ポンプ	名	称		MS600F							
	型	式		往復動横型5連ピストン式							
	常用回転速度	(rpm)		920							
	圧力	(MPa)		1.5							
	吐出量	(L/min)		42.3							
送風機	型	式		後置静翼式軸流一段							
	常用回転速度	(rpm)		2300							
	風量	(m ³ /min)		290							
ノズル	種	類		ディスクノズル							
	個	数		14							
	ノズル噴霧量		(L/min)		31.5						
	噴霧角度(度)		250								

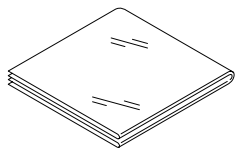
■ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

*① . 最高速度は、エンジンフルスロットル時の速度です。

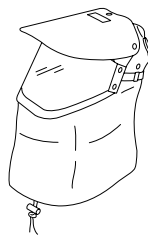
*② . ブレーキペダルを連結していない状態の片ブレーキ旋回時の半径です。

14. オプション(純正品一覧)

()内は部品番号です
詳細については丸山製作所のカタログを参照してください。



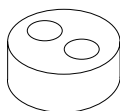
ビニールシートカバー M
(063258)



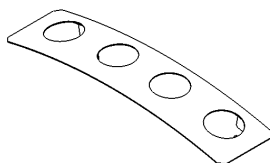
防除ヘルメット
MAP252P-1
(461469)



ノズル板
穴径 0.7~2.1 無穴



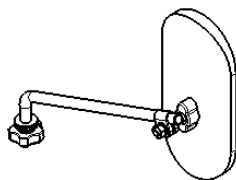
中子 到達拡散形
(068995)



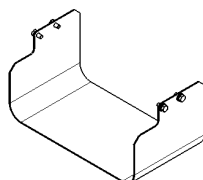
制風板 棚用
(199370)



遮断板
(199381)



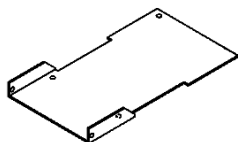
バックミラークミタテ
(699359)



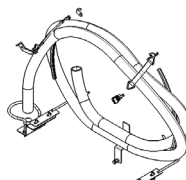
アンダーカバークミタテ
(199373)



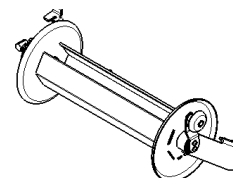
ガセキクミタテ
(867496)



座席前移動ブラケットクミタテ
(868136)



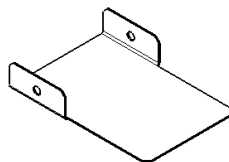
ジェットポンプクミタテ
(699368)



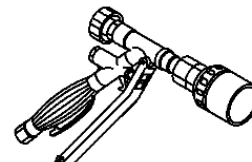
マキシアクミタテ
(699360)



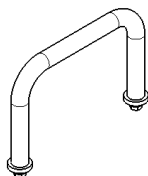
2 方向切換ノズル組立
(199380)



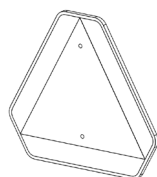
角度調節板
(182580)



ライトズーム 30 型 (G1/4)
(429581)



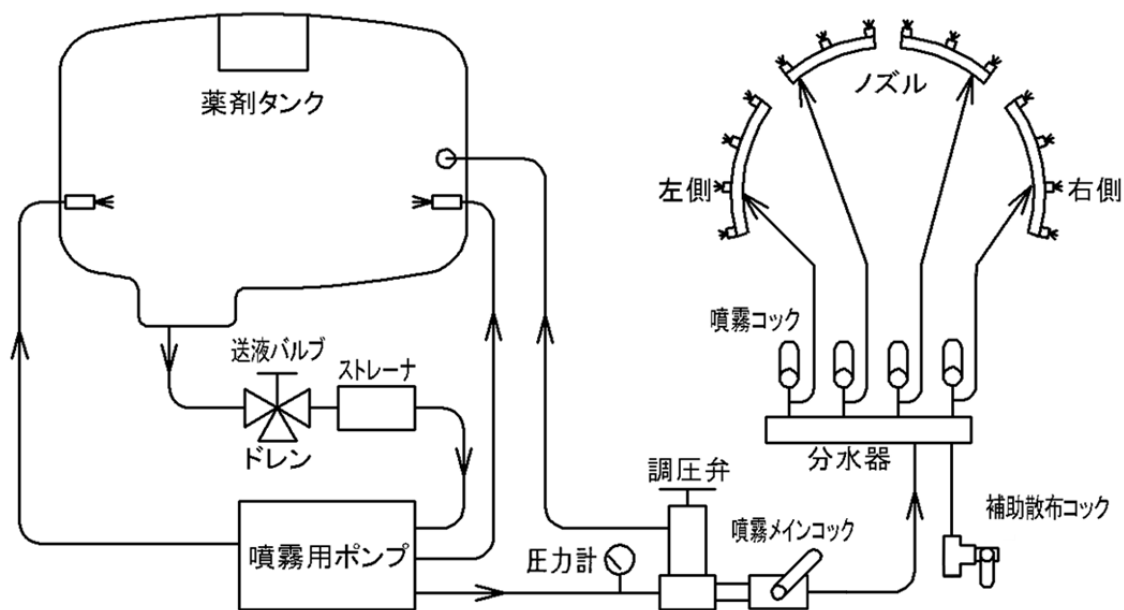
ガードパイプクミタテ
(699378)



低速車マーク
(601359)

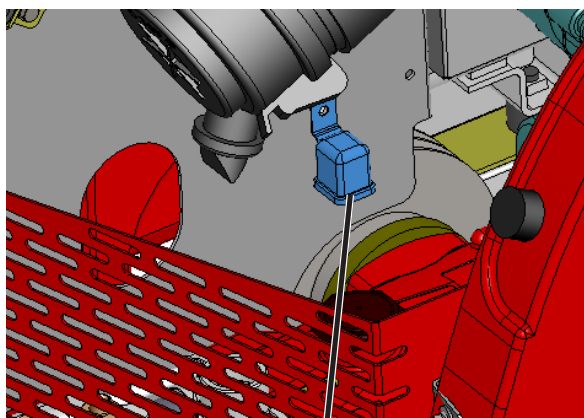
オプション (別売)

15. 配管系統図

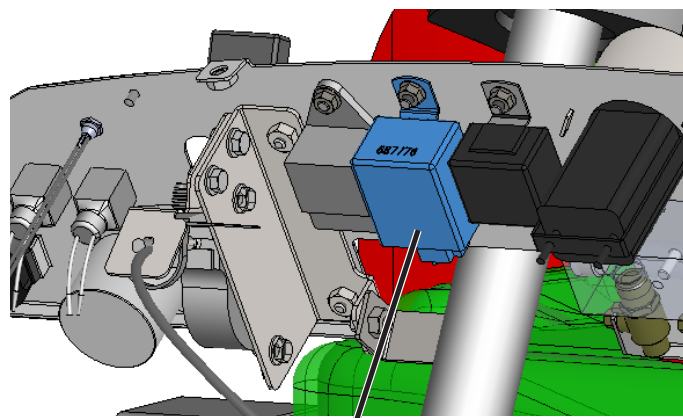


※ 配管の中の矢印は、水または薬剤の流れる方向を示しています。

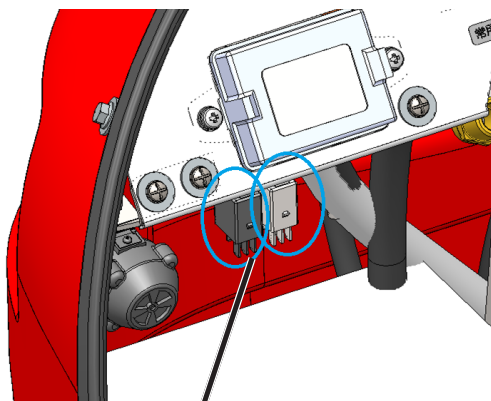
■ リレーの搭載位置



スタータリレー
※エアクリーナ下

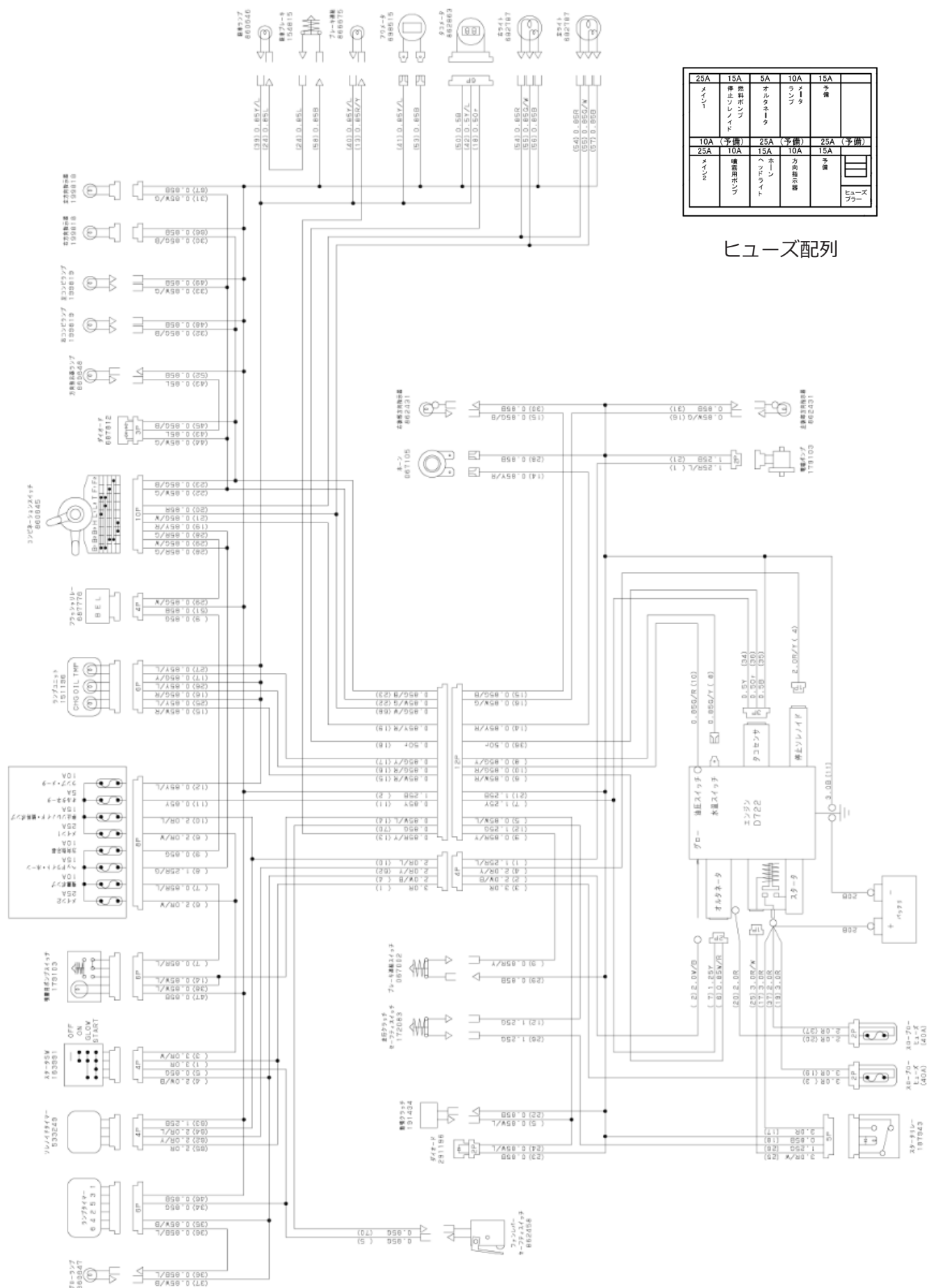


フラッシャリレー
※ケイキパネル裏側

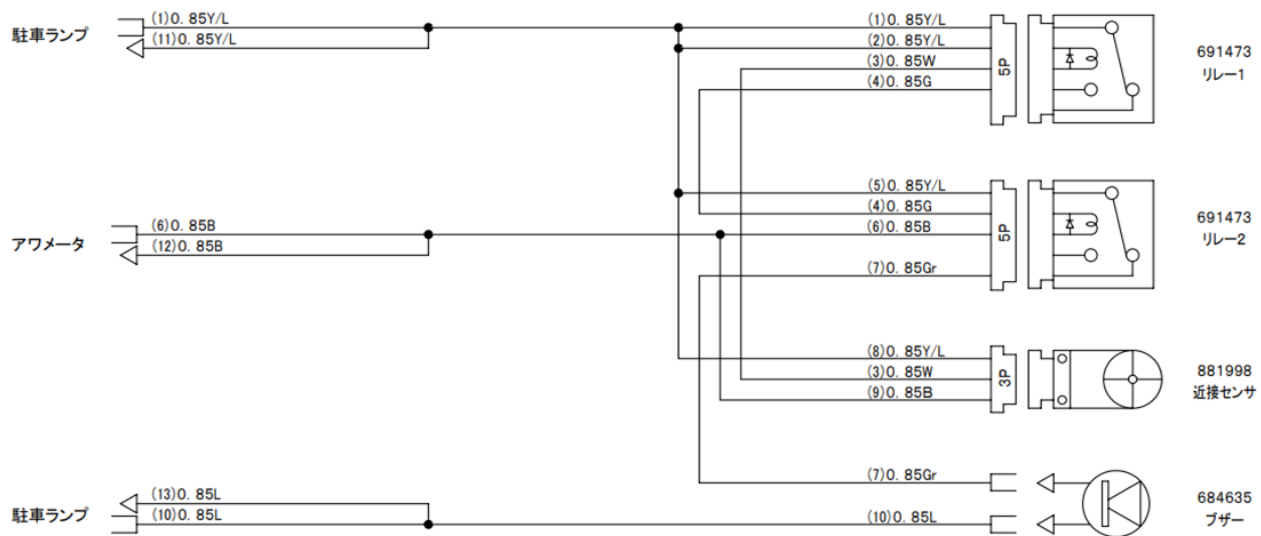


駐車ブレーキ警告ブザーリレー
※ケイキパネル裏側

16. 配線図



ヒューズ配列



サービスと保証について

■ 保証書について

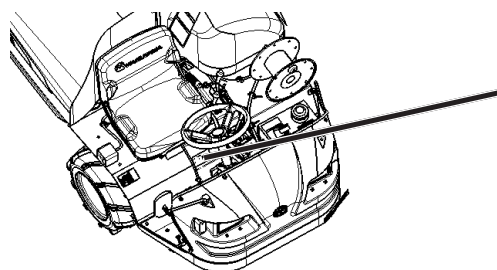
保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■ アフターサービスについて

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。
または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



農業機械の種類	スピードスプレー
製品コード	315383
型式名	SSA-E502
区分	DX
製造番号	*****
製造会社	 株式会社 本田技研工業 東京都千代田区神田3-4-15

■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

※ 修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 600737

P/N. 600737-07 2024.11